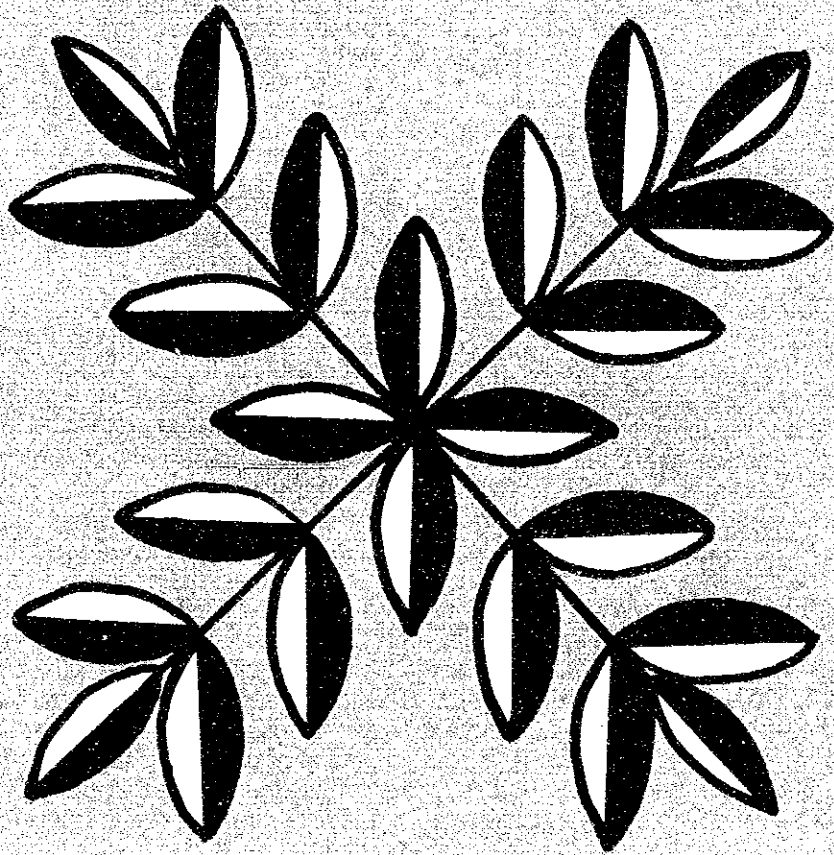


# ブラジル薬用植物要覧

(増訂版)



国際協力事業団サン・パウロ事務所  
農業情報室

S	P
J	R
94-1	

ブラジル薬用植物要覧 (増訂版)

国際協力事業団サン・

R1703  
99  
SP



# ブラジル薬用植物要覧

(増訂版)

2733 2

JICA LIBRARY



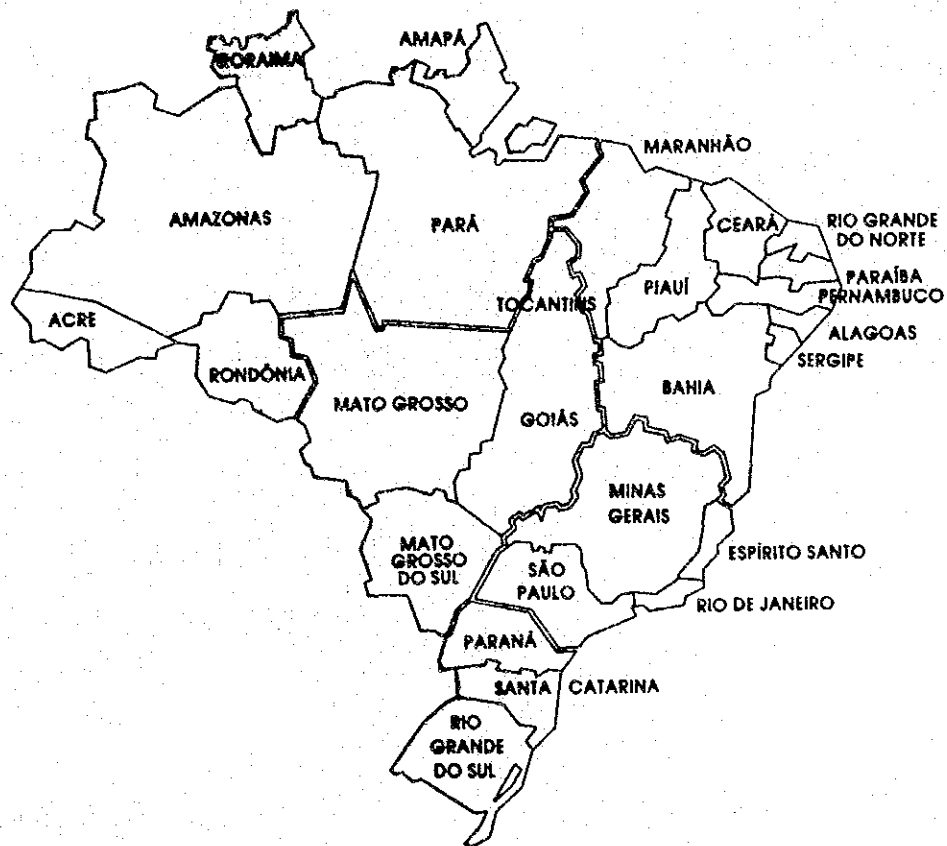
1118623161

国際協力事業団サン・パウロ事務所  
農業情報室



国際協力事業団

27332



## まえがき

本要覧は、当事務所農業情報室が、1993年3月に作成した「ブラジル薬用植物要覧」の増訂版である。本年度は、前年度の278種に加え、熱帯湿潤のアマゾン、熱帯乾燥の東北、亜熱帯の中西部地方各地に自生している薬用植物（樹木を含む）700種について、収集した資料を整理、編集したもので、構成は、次の通りである。

第1章は、ブラジルの薬用植物に関する基本的情報、つまり、沿革、生産、流通、研究機関とその研究内容、今後の動向についてまとめた。

第2章は、今日のように、野生の薬草木の採集、採取を続けていけば、いずれ絶滅の事態をむかえるわけで、かつ、生薬企業、消費者のいずれにとってもコスト高につく。今後は、栽培条件下に移行するのが望ましく、現在各地で行われている栽培事例について、その概略を解説した。

第3章は、市場に流通している978種の薬用植物について、一般名、学名、科名、地方名、生態性状、利用部位、化学成分、薬効、用法用量についての情報を要約したもので、本要覧の中心部分にあたる。ブラジル薬局方に収載されている生薬は、別名の欄に、輸入原料は、利用部位の欄に示した。なお、現在試験中のものも加えた。

第4章は、同一植物が、地方により、まったく見当のつかない別名でよばれており、また同一植物名が異なる植物に与えられている場合が多く、検索に不便であったので、収集した約2,000の地方名から978種の植物名が、また属名から植物名が、そして、科名の日本名を、すぐ検索できるように索引をもうけた。

図版は、M. Pio Corrêa (1874-1934, Rio de Janeiro植物園の博物学者)の著書「Dicionário das plantas úteis do Brasil e das exóticas cultivadas」全6巻、農務省刊行(1926年)から複写した。

短期間にまとめたので、不正確な情報があると思うが、御指摘を得て訂正の機会を持ちたいと考えている。

平成7年3月

国際協力事業団サン・パウロ事務所  
所長 上杉光則

# 目次

まえがき

第1章	ブラジルの薬用植物	1
1-1	沿革	1
1-2	生薬調製法と症状別処方	2
1-3	薬用植物の生産と流通	7
1-4	研究の現状と今後の動向	8
第2章	薬用植物の栽培	11
2-1	生態条件、原生地の調査	11
2-2	育苗	12
2-3	定植	13
2-4	管理	13
2-5	病虫害防除	14
2-6	収穫	15
2-7	乾燥と保管	15
2-8	主要薬用植物の栽培要領	16
2-9	収穫と調製の要領	18
2-10	薬草園の管理	19
第3章	薬用植物の概要 (ページ)	21
	A(21), B(39), C(49), D(94), E(96), F(109), G(115), H(123), I(125), J(128), L(137), M(142), N(159), O(160), P(162), Q(178), R(180), S(183), T(193), U(205), V(211), Z(216)	
第4章	索引	217
4-1	地方名→植物番号検索	217
4-2	属名→植物番号検索	255
4-3	科名(日本名) 検索	265

図版





## 第1章 ブラジルの薬用植物

### 1-1. 沿革

#### ① 薬用植物の生育環境

ブラジルにおける薬効成分をもつといわれている植物は、約 12 千種(UNICAMP, サンパウロ州立 カピナス/Campinas大)。このうち、薬効成分が確認されているのは、僅かに 300種前後で、市販されている対症療法剤 (Allopathic) の 25%、類似療法剤 (Homeopathic) の、60%が、植物起源の製剤である。

これらの薬用植物が、北緯 5度から南緯34度、西経 34-74度の間に、南北 4.320km、東西 4.340kmにわたって、熱帯、亜熱帯、温帯にまたがる 8.510千km<sup>2</sup> の国土に分布している。

国土の 50%が熱帯、30% が亜熱帯、20% が温帯で、その80% は、年間 1.000-3.000mmの降雨量がある。植生からみると、森林が 5.000千km<sup>2</sup> で、国土の 60%をしめる。

標高からみると、200m以下の低地が 3.490千km<sup>2</sup>(41%)、200-500mが 3.150千km<sup>2</sup> (37%)、500-1.200m が 1.820千km<sup>2</sup>(21%)、1.200m以上の高地は、50千km<sup>2</sup>(0.5%) である。

#### ② 熱帯森林

地球上に、現在残された熱帯森林は、中南米、インドネシアを中心とする東南アジア、アフリカ西岸のコンゴ河流域の3カ所、計 17 百万 km<sup>2</sup>である。

アマゾン地域(5.500千km<sup>2</sup>, 日本国土面積の 13 倍)とは、ブラジル、ベネズエラ、コロンビア、エクアドル、ペルー、ボリビア、ギアナ、スリナムの 8カ国にまたがるが、ブラジルがその 60%、3.300 千km<sup>2</sup> をしめている。1.200 の支流を集めた、アマゾン河は全長 6.300km。地球上の全淡水の 2/3がこの流域にある。

アマゾンの土壌は肥沃ではなく、樹高 50メートルの巨木でも、その根は、地下 1メートル程度しか分布しておらず、しばしば、原始林内に強風に倒された樹木をみることができる。

森林破壊、毎年 6-7月、アマゾン地方での火入れは、10-15 千カ所(0.4百万km<sup>2</sup>)におよび、その煙がアフリカ大陸、南極にも到達するという。こうして破壊された森林の上に強烈な日光があたり、地表を乾燥させ、そこへ豪雨が襲い、地表の養分を押し流す。チガヤが生え、いわゆるカンボ、セラードとなる。森林に期待される保水機能もなくなるから、地表からの蒸発も減り常時干ばつ状態を示す。

アマゾンにある植物は、約 100千種と推定されているが、毎年 1千種の割合で、絶滅が進行しているといわれる。

ブラジル西部にひろがるパンタナル (Pantanal, 雨期の到来とともにパラグアイ河の増水により浸水状態となる。面積 140千km<sup>2</sup>)も、薬用植物資源の宝庫とみられるが、2カ所の国有林だけでは不十分である、と指摘されている。

### ③ 化学成分

薬用植物の利用部位を化学的に分析して、次の 8成分に分類している。

- |                |         |
|----------------|---------|
| 1. Acido graxo | 脂肪酸     |
| 2. Alcaloide   | アルカロイド  |
| 3. Esterol     | ステロール   |
| 4. Flavonoide  | フラボノイド  |
| 5. Glicosideo  | 配糖体     |
| 6. Mucilagem   | 粘質物、ガム質 |
| 7. Resina      | 樹脂      |
| 8. Tanino      | タンニン    |

### ④ ブラジル薬局方

ブラジル薬局方 (Farmacopeia Brasileira) は、第 3版 (1977年) が最新版である。局方に収載されている生薬は、次の 26 種で、うち 2. 寒天、6. アロエ製品、7. 澱粉を除く 23 品目について、第 3章の別名欄に、局方収載品である旨、表示した。

- |               |                      |                |                    |
|---------------|----------------------|----------------|--------------------|
| 1. Aconito    | 8. Arnica            | 15. Digital    | 22. Maracuja       |
| 2. Agar       | 9. Badiana           | 16. Estramonio | 23. Quina-amarela  |
| 3. Alcachofra | 10. Beladona         | 17. Guarana    | 24. Quina-vermelha |
| 4. Alcacuz    | 11. Canela-do-ceilao | 18. Hidraste   | 25. Ruibarbo       |
| 5. Aloe       | 12. Cascara-sagrada  | 19. Ipeca      | 26. Sene           |
| 6. Aloina     | 13. Colchico         | 20. Jaborandi  |                    |
| 7. Amido      | 14. Cratego          | 21. Lobelia    |                    |

#### 1-2. 生薬調製法

##### (1) 秤量

Uma xicara (茶碗)/um copo(コップ) とは 100ml、Uma colher (さじ) とは、薬草木の茎葉、根、花の乾物について、Sopa (スープ) 2g, Cha (茶) 1g, Cafe (コーヒー) 0.5g、生 (なま) の場合は、乾物量の 4-5倍量、エキスの滴数は、20滴で 1mlである。

##### (2) 内服薬の調製

###### ① Infusao/Cha (お茶)

茶碗、コップ (内容量 100ml) に乾物 1-2g をいれ、熱湯 100mlをそそぎ、5-10分間フタをして、むらし、こして飲む。カゼひきの場合は、熱いうちに、胃腸疾患の場合は冷えてから飲む。調製は 1日分ずつ調製する。

Gargalejo(うがい) Inalacao (吸入) にも利用できる。

## ② Decocto/Cozimento(熱煎)

同上量の薬草を冷水に加え、火にかけ、10-20 分間煎じる。樹皮や根の場合、時間を長くかける。煎じる場合の容器は、ナベ類でなく、ステンレススチール製か、土瓶を使用する。煎じた後、10-15 分間静置し、こしてから飲む。翌日分を調製してはならない。

うがい、吸入にも利用できる。

## ③ Macerado (冷煎)

同上量の薬草を冷水中に加え、葉や種子の場合 12 時間、根や樹皮の場合、24時間おいて、有効成分の抽出し、こしてから飲む。抽出にアルコール飲料を利用してよい。

## ④ Xarope (シロップ)

砂糖、糖液、蜂蜜と、① ②の方法で調製したお茶や煎汁を混合し、火にかけ、沸騰しない程度に加熱し、溶解したもの。冷えてから瓶等に入れ、糖分により、発酵しやすいので、冷蔵庫に保管する。風邪、ノドの痛みに用いる。

## ⑤ Suco (果汁), Sumo (青汁), Salada(サラダ)

### (3) 外用薬の調製

#### ① Banho (浴剤)

浴剤は、全身浴用と部分浴用(座浴)がある。前述の温、熱、冷煎のいずれかの方法で調製したものを、35℃の温湯にまぜ、利用する。

#### ② Cataplasma (ハップ)

生葉、生根を、そのまま、あるいはよくすりつぶしたもの(Emplastro)に、小麦粉を加えてねり、ガーゼ 2枚にはさみ、患部にはりつける。乾葉、根の場合は、袋状のガーゼに入れ、煎じてから、同様に利用する。

#### ③ Compressa (温湿布)

軟膏と似ているが、温、熱煎によって調製したものを、布やガーゼにしませて、しばらく患部にあて、さらに熱が逃げないように、他の布、ガーゼで患部をカバーする。

#### ④ Tintura(チンキ)

水の代わりに、冷アルコールで抽出する。マッサージ用に良く用いられる。内服の場合はうすめて飲用に供する。例えば、コップ 1杯分、ぎっしり詰込んだ薬草に飲用アルコールやピンガ(サトウキビ汁を発酵、蒸留した地酒)を加え、10-15 日間つけこむ。

#### ⑤ Unguento (軟膏)

薬草の有効成分を温ワセリンで数分間抽出し、こしたもの。密閉容器に保存する。特に加熱せず使用する。皮膚に対して長時間作用する。

なお、Extrato(エキス)は、家庭での調製は困難。器具や薬学の知識が必要であり、調剤薬局、生薬メーカーが製造する。

### (3) 症状別処方

各症状に対する利用薬草の種類は、地方により異なるが、ここでは、アマゾン地方の処方を紹介する。漢方薬は合剤であるが、インジオの処方単剤処方、合剤処方はないといわれるが、そんなことはない。薬草名は、命名の混乱をさけるため、カッコ内に、属名を記した。

#### 1. 循環器

高血圧	Jaboti (Peperomia), Alpiste (Phalaris <small>クサヨシ</small> , Canary-grass), Cravo-de-defunto (Tagetes), Erva-doce (Pimpinella), ニンニク
脳溢血	Cipó-puca (Cissus), Cravo-de-defunto (Tagetes), ゴマ、ショウガ
心臓炎	Arruda (Ruta)
動悸	Capim-limão (Cymbopogon), Carmelitana (Melissa), Erva-cidreira (Lippia), Erva-doce (Pimpinella), Vindicá (Alpinia)
貧血	果実 Abacate, Jenipapo (Jenipa), Verônica (Dalbergia)

#### 2. 消化器

アメーバ症	果実 Mamaoの果実、種子、Cabacinha (Luffa), Marupa (Simaruba)
胃せん痛	Erva-doce (Pimpinella), Casca-preciosa (Aniba), Hortelã (Mentha)
腸せん痛	Jaboti (Peperomia)
下痢	果実 Caju, Goiaba, Graviola (Anona), Marupa (Simaruba)
ガス	ショウガ、Casca-preciosa (Aniba), Jambu (Spilanthes)
便秘	Dormideira (Mimosa)
寄生虫	果実 Mamão, Mastruço (Chenopodium)

#### 3. 肝臓、尿路

肝炎	Amor-crescido (Portulaca), パラー栗のイガ、Erva-tostão (Boerhavia), Jurubeba (solanum), Sacaca (Croton), Verônica (Dalbergia)
腎炎	果実 Abacate, Camembeca (Polygala), Cana-de-macaco (Costus), Guine (Petiveria), Jaboti (Peperomia), Lirio-do-brejo (Hydychium), Quebra-pedra (Phyllanthus), Sucuriçu (Mikania)
尿痛	Quebra-pedra (Phyllanthus), 西瓜の種子
膀胱炎	Quebra-pedra (Phyllanthus)
尿道結石	Verônica (Dalbergia)
黄だん	果実 Abacate, Pega-pinto (Boerhavia)

#### 4. 子宮

- おりもの Castanha-de-pará のイガ、Veronica(Dalbergia)  
生理痛 Andiroba(Carapa), Catinga-de-mulata(Leucas), Elixir-paregorico(Piper  
鎮痛の仙薬), Urtiga(Fleurya)  
産道洗浄 Murta-cabeluda(Myrcia), Sucuriju(Mikania)

#### 5. 呼吸器

- ぜん息 Andiroba(Carapa), Catinga-de-mulata(Leucas), ヒマシ油  
かっ血 Mastroço(Chenopodium)  
風邪 Alfavaca(Ocimum), Alfazema(Lavandula), Hortelã(Mentha), Laranja-da-  
terra(Citrus), Mastroço(Chenopodium), Pião(Jatropha)  
百日咳 果実 Manga, Pirarucú(Bryophyllum)  
喉頭炎 Andiroba(Carapa), Copaiba(Copaifera)  
肺炎 Alfavaca(Ocimum)  
せき Carucaá(Cordia), Erva-santa(Siparuna), Juca(Caesalpinia), Malvarisco  
(Pothomorphe), Urucu(Bixa)  
結核 Carucaá(Cordia), Embauba(Cecropia), Juca(Caesalpinia)

#### 6. 皮膚

- かゆみ Melão-de-são-caetano(Momordica)  
丹毒 Babosa(Aloe), Malvarisco(Pothomorphe)

#### 7. その他

- 神経鎮静 Capim-limão(Cymbopogon)  
打撲傷 Amor-crescido(Portulaca), Andiroba(Carapa)  
関節炎 Urucu(Bixa)  
ヒステリー Manjerona(Origanum)  
頭痛 Alecrim(Rosmarinus), Alfavaca(Ocimum), Copaiba(Copaifera)  
糖尿病 コーヒー生豆、Capim-santo(Cymbopogon), Sacaca(Croton)  
出血 果実 Caju  
痔 Cambeca(Polygala)  
内臓腫れ Sacaca(Croton), Sucuriju(Mikania)  
マラリア Pajamarioba(Cassia)

甲状腺腫	Erva-cidreira(Lippia), ニンニク
性不能	Guiné(Petiveria)
脱毛	Malagueta(Capsicum)
リウマチ	Catinga-de-mulata(Leucas), Cipó-puca(Cissus), Jambu(Spilanthes), Mucura-caá(Petiveria), Muirapuama(Ptychopetalum), ショウガ
はしか	Sabugueiro(Sambucus)
眼病	Acurauzinho(Euphorbia), Cuia(Crescentia)
耳痛	Cuia(Crescentia), Trevo-roxo(Plectranthus)
口内炎	Pião-branco(Jatropha)

#### (4) 地方名と一般名

同一植物に対して、地方により名称が異なり、同一名称が、異なる植物に対して使用されているので、処方を見た時、どの地方で用いられている名称か、あるいは、どんな処方に対して、この薬草を利用するのかわ確認する必要がある。こうした混乱がさけるため、正しくは、学名を使用すべきである。

一例を示す。鎮静剤として、Erva-cidreiraが指示されたとする。Erva-cidreira と呼ばれる薬草は、主として、次の3種である。

学名	科名	作用
1. <i>Melissa officinalis</i>	シソ科	神経系統の安定、消化不良等
2. <i>Lippia alba</i>	クマツヅラ科	生理の遅れ調整
3. <i>Cymbopogon citratus</i>	イネ科	鎮静剤、香料

この場合、1.か3.かになるが、3.の用途は、主として香料であるから、精神、神経安定の目的に使用するなら、1. *Melissa*である。

*Erva-de-santa-luzia* の場合も、次の3種は同名で使用されている。

学名	科名	作用
1. <i>Pistia stratiotes</i>	ウキクサ科	利尿ほか
2. <i>Commelina sulcata</i>	ツユクサ科	利尿ほか
3. <i>Euphorbia brasiliensis</i>	トウダイグサ科	利尿ほか

どれを使っても同効果かという、薬効に対する主、副成分の関係で、必ずしもそうではない。生薬に理解のある医師の指導のもとに利用すべきである。

このほか、俗称、Hortelã-pimenta は、シソ科(Labiatae)の、*Ocimum*属、*Mentha*属の、多数の植物に対して使われている。また、セリ科(Umbeliferae)の *Funcho*(*Foeniculum*属)は、価格の高い *Erva-doce*(*Pimpinella*属)として販売されている例がある。

化学的には、いずれも、その精油の成分が異なる。

また、俗称 Alecrimは、同じくシソ科の Rosmarinus 属、クマツヅラ科(Verbenaceae)のLippia属の植物に広く使われている。

### 1-3. 薬用植物の生産と流通

#### (1) 生産の実態

ブラジルにおける薬草生産は、大部分が採取、採集である。最近になって、欧州原産の薬草の気候順化とか、採集の能率化のために、自生地環境整備、栽培が行われている一部に、製薬会社の下請採取、栽培、またメーカー直接の栽培、成分抽出（L-DOPA、ピロカルピン等）がある。

生産量は、化粧品香料、香辛料を含めて、100-150 千トン（乾物）、金額 100-150百万ドル/年間（卸売価格）といわれるが、あくまで推測である。

#### (2) 流通

流通も、流通機構といえるほどの組織があるのではなく、採取者⇒集荷業者⇒薬草店、露店の経路がほとんどである。参考に、Kgあたりの流通価格（従って、消費者価格ではなく、10-20kg 袋単位の卸売価格）を示す（調査時点1994年 3月、US\$）。

薬草名	価格/kg	薬草名	価格/kg
Angico-branco	1.70	Batata-de-purga	1.50
Caju	1.25	Canela-sassafras	1.25
Capim-limão	0.90	Capim-santo	1.00
Caroba	1.10	Caçau	1.25
Catingueira	2.00	Copaiba	4.00
Catuaba	0.90	Cavalinha	1.60
Cipó-azougue	1.25	Cipo-cabeludo	1.10
Cipó-caboclo	1.00	Cipo-carijo	1.10
Cipó-cravo	1.00	Cipo-suma	1.10
Embauba	0.90	Erva-de-macaé	2.00
Fava-santo-inacio	1.80	Guiné	1.60
Erva-de-passarinho	1.00	Erva-pombinha	2.50
Erva-tostão	1.25	Ipê-roxo	0.90
Nó-de-cachorro	1.25	Losna	3.00
Pau-d'arco	1.70	Pau-homem	4.00
Perobinha	1.10	Quina-vermelha	1.30
Quixaba	0.90	Sete-sangrias	1.30

注(1) Erva-pombinha(Phyllanthus niruri)=Quebra-pedra。トウダイグサ科(Fuphorbi-  
acea)

(2) Losna(Artemisia absinthium)=Absinto。キク科(Compositae)。

### (3) ブラジルの医薬品業界

ABIFARMA(Associação Brasileira da Industria Farmaceutica, ブラジル医薬品工業会  
Rio de Janeiro市, 1947年創立)の加盟社数 350社。売上高 45 億ドル(世界第 9位)。

上位10社(アメリカ 6, スイス 2, ブラジル 2社)の売上高が約10億ドル、11-20位の  
10社が 6億ドルで、計30-35%をしめている。

#### 1-4. 研究の現状と今後の動向

従来は、医学、薬学者の集団であった研究体制が、学際を越えて、化学、農学者も加え  
た研究組織にかわってきた。これは、戦後の合成化学の進歩による医薬品の製造が、人類  
の健康に貢献したと同時にもたらした副作用の問題がとりあげられ、ここ数年再び「原始  
林のなかへ」へと方向転換、国内各大学薬学部や研究所は、薬理作用、薬効物質の検索、  
生態調査、栽培技術等、重点のおきかたは、研究者の数、施設等により異なるが「緑の波  
」運動、生薬、無農薬食品の生産、開発研究にシフトし始めている。また外資系の医薬品  
会社も北半球で開発した薬品を販売するだけでなく、15千種といわれる熱帯、亜熱帯の  
薬用植物を研究開発しようと乗り出してきている。

##### ① UNICAMP

UNICAMP(カンピーナス大学) 付属の CPQBA (Centro Pluridisciplinar de Pesquisas  
Qumicas, Biologicas e Agricolas, Vila Betel, Paulinia-SP, Caixa Postal 27, CEP  
13140 ☎ 0192-74-2500)は、1987年開設、32haの試験ほ場と 6haの実験室、温室、ファイ  
トトロン(人工気候室)をもち、30名の薬学、植物化学、合成化学、生物、微生物学、プ  
ロセス技術、農学の研究者が、同じ植物について、栽培、化学分析、薬効成分の分離精製  
、動物での治療効果試験を共同で研究している。この 5年間に下記の 18 薬用植物につい  
て、薬効成分の生産という点からの研究を終え、次に行う50種の植物が、すでに、ほ場に  
植えられている。

植物名	学名	科名	薬用効果
Babosa	Aloe vera	ユリ科	頭髪、皮膚強壯剤
Calêndula	Calendula officinalis	キク科	消毒剤
Capim-limão	Cymbopogon citratus	イネ科	消化剤



Dedaleira	<i>Digitalis lanata</i>	ゴマノハグサ科	強心剤
Digitalis	<i>Digitalis purpurea</i>	同上	同上
Duboisina	<i>Duboisia myoropoides</i>	同上	麻酔剤
Embauba	<i>Cecropia glaziovix</i>	クワ科	高血圧治療剤
Erva-cidreira	<i>Melissa officinalis</i>	シソ科	消化剤
Espinheira-santa	<i>Maytenus ilicifolia</i>	ニシキギ科	抗潰瘍剤
Guaco	<i>Mykania glomerata</i>	キク科	気管支拡張剤
Hortelã	<i>Mentha piperita</i>	シソ科	駆虫剤
Jaborandi	<i>Pilocarpus spp</i>	ミカン科	緑内障治療剤
Mentrasto	<i>Ageratum conyzoides</i>	キク科	消炎剤
Mil-folhas	<i>Achillea millefolium</i>	キク科	強壯 Depurative
Papoula	<i>Papaver bracteatum</i>	ケシ科	鎮静剤
Quebra-pedra	<i>Phyllanthus corcovadensis</i>		
		トウダイグサ科	利尿剤
Tomilho	<i>Thymus vulgaris</i>	シソ科	刺激剤
Vinca-rosa	<i>Vinca rosa</i>	キョウチクトウ科	刺激剤

センターは、大学予算のみに依存せず、民間からの委託研究費、研究成果のパック販売により経費を捻出している。一例をあげると、中国原産ヨモギ、チンハオ（学 *Artemisia annua*, キク科）の気候順化を行い、薬効成分 Artemisinina を抽出した。これまで使われていた、いずれの薬剤も効かなくなった多剤耐性型マラリアの治療に効果がある。

また、特殊条件下で栽培したコムギから抽出する消炎剤、Erva-baleeira（学 *Cordia verbenacea*, ムラサキ科, Boraginaceae）から Artemetina を工業的に抽出する方法等を開発した。

## ② USP(サンパウロ大学)

同大学の研究者のひとりが、10年前サンパウロ州北部の海岸で釣針で怪我をした漁民がなにやらポケットからだして傷につけた乾草を見逃さなかった。これから研究が始まり、のちに消炎成分、Artermetina を分離した。ついで Laboratorio Ache（第2位の売上高）との共同研究にはいり、工業生産に道を開いた。まだ市販されていない。

現在研究中の薬用植物は、次の通り。

植物名	学名	科名	病名、薬用効果
Guaçatonga	<i>Casearia sylvestris</i>	イイギリ科	消炎作用
Gengibre	<i>Zingiber officinale</i>	ショウガ科	気管支炎、心臓炎
Copaiba	<i>Copaifera officinalis</i>	マメ科	ひ尿器、呼吸器疾患

Guiné	Peltiveria alliacea	ヤマゴボウ科	免疫物質
Centella-asiatica	Centella asiatica	セリ科	蜂巢織炎
Barbatimão	Stryphnodendron barbatiman	マメ科	皮膚斑紋
Estoraque-do-campo	Styrax benjoin	エゴノキ科	外傷治癒
Fruto-do-lobo	Solanum lycocarpus	ナス科	同上
Macela-do-campo	Achirocline satureloides	キク科	消化剤

### ③ UFRJ(リオ大学)

Univ. Federal de Rio de Janeiro では、次の薬用植物について研究中。

植物名	学名	科名	病名、薬用効果
Guaco	Mikania glomerata	キク科	気管支炎
Embauba	Cecropia glaziovix	クワ科	降圧剤
Maracujá	Passiflora edullis	トケイソウ科	情緒不安定症
Pata-de-vaca	Bahunia fortificata	マメ科	糖尿病
Mentrasto	Ageratum conyzoides	キク科	消炎剤

### ④ 民間企業

製薬会社、農場等で、情報収集中のものは、以下の通り。

植物名	学名	科名	病名、薬用効果
Capim-cheiroso	Killinga odorata	カヤツリグサ科	精油(US\$ 40/l)
Carqueja	Baccharis trimera	キク科	結石除去
Catuaba	Erythroxilum catuaba	コカノキ科	精力剤
Celidônia	Cheridonium majus	ケシ科	鎮痛剤
Ginkgo	Ginkgo bilota	イチョウ科	血流促進剤
Teixo	Taxus pacifico	イチイ科	抗ガン剤

### ⑤ 今後の研究動向

ブラジルには、上記 3大学以外に、各地に連邦立、州立大学があり、それぞれ薬学部、理学部、農学部がある。また国立農畜産研究公社(EMBRAPA)や各州も、農業試験場をもち薬用植物の開発利用研究を行っている。

今後の研究の動向としては、インディオの利用している、あるいは原始林内で霊長類が体調をくずした時に食べている植物(樹木を含む)の調査研究、北半球で既に薬効が確認された植物の移植、栽培試験に重点がおかれているようである。 □

## 第 2 章 薬用植物の栽培

### 2-1. 生態条件、原生地の調査

すでに、広く栽培に移されている薬用植物は、ともかく、新しく栽培に移す薬用植物の場合、原生地の環境 (Habitat) について調査しなくてはならない。調査項目は次の通り。

#### ① 気温

付近の気温、霜害、乾ばつに関するデータを集める。高、中、低温のいずれを好むか。

#### ② 湿度

高、中、低湿のいずれを好むか、病虫害、薬効成分の含量とも関連がある。例えば、*Atropa*, *Datura*, *Hyoscyanus* (いずれもナス科) は、乾燥条件下で、アルカロイドの含量が高いし、*Capim-limão* (学 *Cymbopogon citratus*) の場合は、精油含量が高い。

#### ③ 土壌条件

生育土壌は、肥沃、普通、やせ地のどれか (常に肥沃土を好むとは限らず、やせ地を好む植物もある) また砂地か、粘土の含有割合 (採土して分析)。

排水条件はどうか。あまり問題としない植物もある。

#### ④ 日照条件

直射日光が終日当たっているか、半日陰か (この場合、日陰度を 75, 50, 25% と数量化してみる) 育苗時、半日陰においたのに、普通の畑に定植したために失敗した例がある。

例えば、*Hortelã-pimenta* (学 *Mentha piperita*) は、長日性植物で、12-14 時間の日照時間が必要。ブラジル南部は、この条件を満たしている。

発芽も日照と関係があり、*Camomila* (学 *Matricaria chamomilla*), *Erva-de-santa-maria* (学 *Chenopodium ambrosioides*), *Tanchagem* (学 *Plantago* spp) 等は、種子に覆土すると発芽しない。

#### ⑤ 生育場所、緯度

平地か、高地、低地、山中、傾斜地か。一般に低地のほうがアルカロイド含量が多い。例えば、*Dente-de-leão* (学 *Taraxacum officinale*, タンポポ)。

緯度については、同緯度で栽培するなら、南北いずれの半球でも、結果は同じはずだが前述のナス科の 3 薬用植物は、南半球でアルカロイドの含量が多いといわれる。

#### ⑥ 植物の性状

この植物は、多年生、越年生、1 年生か。草本、半かん木、かん木、小木、大木か。直立性、ほふく性、つる性か。浅根性か、深根性か。

繁殖は、種子によるか、さし木か、株分けか。

種子を直まきできるほど強健か、苗床を要するか。

収穫時期、部位、収量に関する情報。

## 2-2. 育苗

### ① 苗床 (Viveiro)

適当な大木の下とか、半日は日光が当たる場所で、通風がよく、南向きでない傾斜地、しかも冬の強風の当たらない場所で、かん水に便利な場所を選ぶ。

苗床用の支柱は、長さ2.8-3.3mで、地中に0.8mは埋める。埋込み間隔は3x3m。直射日光と雨から幼苗を守るために、遮光度50%の寒冷しゃ (Sombrite 遮光度30, 50, 70%の3種ある) を使用する。

### ② は種床 (Sementeira)

苗床内につくる、最も安価な床は、高さ20cm以上の高うねをつくることである。排水もいいし、水分制御が簡単である。

しかし小苗の生産にはイソボール (発泡スチロール) 製のは種子ベッド (育苗成形培地240穴, 156穴等) を地上75-80cmに鉄ワクをくんでならべる。苗木の場合は、ポリエチレン袋 (1-5リットル) で育苗する。

育苗床の大きさは1x5m、育苗床の間隔は0.5-0.6mが作業性がよい。方向は南北。

### ③ 培養土

苗床で使用する土は、原産地の土壌条件にあわせて準備するが、まずpHを調整する。5.0以下なら、6.0-6.5程度まで、マグネシウムいりの炭酸カルシウムを用いて調整する。ついて粘土質の割合を40%以下にさげる。化学肥料は一切使用できないので、放牧に出さない乳、肉牛ふん尿 (雑草種子を持ち込まないため)、鶏ふんを混ぜた堆肥を2-5kg/m<sup>2</sup>として準備する。リン鉱粉、木炭末、くずは使用する。

### ④ は種

苗床の中方向に平行して10cm、樹木苗木用種子の場合は20-30cmの間隔に深さ2.5cmのスジをつける。種子が小粒の場合は、砂と混合して、まきやすくする。ポリエチレン袋に種子をまく場合は3-4粒をまき、苗が5cm程度のサイズになった時点で、間引きする。

### ⑤ さし木、株分け

樹木、かん木類は、さし木で活着する。Guaco, Melissa, Vinca は、この例。さし木をとる母樹は健全で生産の多い樹の枝を長さ10-20cmに切り取り、苗床に2/3を外に出してさしこむ。

健全な株から、その一部を分けてきて、直接定植することもできる (ハッカ)。地下茎を利用できる場合もある (キク科薬草)。

### ⑥ 土かけ

は種後、覆土するが、フルイを通した土 (10l/m<sup>2</sup>) をかけ、ついて、イネ、モミガラ、乾草を刻んだものをかける。

### ⑦ カン水

理想的なかん水は、天井から霧雨のような形で与える。ふつう、穴を針穴程度まで細くしたジョロでかん水する。かん水時間は、早朝または夕刻。日中をさける。5-10日で発芽する。発芽後5-7日で弱い株、病気にかかっている株を間引きする。

### ⑧ 苗木生産経営のめやす

薬草の種類、入手、育苗の難易、苗木の月令、数量等によりことなるが 1本 US\$ 1-3ドル程度で、販売可能である。

## 2-3. 定植

### ①日照条件

薬用植物のなかに、半日陰を好む植物がある(Caapeba, Celidônia, Folha-da-fortuna, Fura-parede, Guacatonga, Pacová, Tipi 等)。これらの植物を移植する前に、日陰樹が既に植えつけてあることが必要であるが、熱帯果樹がよいのか、樹高が20-30mもある高木がよいのか、常緑樹か落葉樹かの情報は無い。

遮光条件は、短日効果と同じで、生長サイクルを短縮し、開花を早め、当然収量に影響してくる。このマイナス効果を消すために、植付間隔、株間を広げる。

### ②土壌 pH のきょう正

酸性の荒地を好む植物もあるが、普通は pH 5.5-6.5 まできょう正する。

### ③傾斜地

等高線をつくり、ウネたてする。等高線の巾は土地の傾斜度合による。

### ④ウネ

1年生薬用植物は、ほぼ野菜と同様に考えていい。巾 1m で、通路は 50cm が基準。植えつけ間隔は、植物の草丈による。草丈がレタス(Alface)のように低いもの(Digitalis)は、列間 30cm x 株間 20cm、草丈 1m 以下なら(Arruda) 50x35cm、草丈 1-2m なら、(Boldo)70x50cmを目安とする。

かん木、樹木の場合は、3x4mを目安として考える。

### ⑤定植時のかん水

定植前日のかん水中止、当日は十分かん水とか、なるべく曇り日の早朝、夕刻を選ぶとか、敷草をおくとか、このあたりの処置は野菜と同様である。

## 2-4. 管理

### ①かん水

最も重要な管理。季節、植物により、かん水量、かん水頻度がきまる。

### ②除草

雑草(こういう名の草はないが)と、薬用植物が、栄養、水、日光のうばいあいがおこるので、手による除草をおこなう。ひとりで管理できる面積は、約2,000m<sup>2</sup>。

雑草は、薬草畑の外へもちだす。また敷草は、雑草の発生をかなりおさえる。

### ③ツル性植物

Guaco, Salsaparrilhaのようなツル性植物には垣根が必要。垣根の高さは 1.2-1.5m。40, 80, 120cm の 3段に針金を張る。

#### ④せん定

カン木、樹木は、収穫後せん定を行う。収穫のすんだ枝、病気にかかっている枝、こみあっている枝を切り払う。樹高も 2m 程度におさえないと作業性がわるい。(Embaubaは、2年で4m以上になる)

#### ⑤防風林

冬季強風がふく地方は防風林が必要。樹種は、Cedro, Grevilea, Leucenaの 3種が推薦されている。

-Cedro	Cedrela fissilis,	センダン科	Meliaceae
-Grevilea	Grevillea robusta	黄花 ヤマモガシ科	Proteaceae
-同上	G. forsterii	赤花 同上	同上
-Leucena	Leucaena leucocephala	マメ科	Leguminosae

### 2-5. 病虫害防除

薬用植物は、野菜や果樹のように収量を多くするための改良をしていないし、育苗、定植、管理に注意を払ってきたのであるから、特に問題はないはずだが、雨期はやはり病虫害がおこる。

#### ①虫害防除

野菜栽培において、フェイジョン(マメ)、コウベ(Brassica 属野菜の総称)、トマトの間に、Camomila(学 Matricaria chamomilla, キク科), Salsa(Petrelinum crispum, セリ科, 香辛料野菜), Segurelha(別名 Alfavaca-de-campo, 学 Ocimum spp, シソ科), Tomilho(学 Thymus vulgaris, シソ科の香辛料野菜)を植えて、害虫の繁殖密度をさげているが、これは、その昆虫忌避作用を利用しているのである。

虫害をさけるには、大規模単作をしない、同科同属の植物を連作しない、収穫残さと、せん定した枝は焼却することが大切。

Samambaia(学 Pteridium aquilinum, ワラビ科, Pteridaceae)乾草 1kgに対して、アルコール 3 lと、水 7 lを加え、毎日数回かく拌しながら 8日間浸漬する。使用時10倍に薄める。薬用植物の主要害虫、Acaro(ダニ), Besourinho(コガネムシ), Cochonilha(カイガラムシ)、Pulgão(アブラムシ)の 4種にたいしてかなり効果がある。

Quássia(学 Quassia amara, ニガキ科, Simaroubaceae)の浸漬液は、Besourinho(コガネムシ), Mosca-branca(学 Bemisia tabaci, ビールス病を媒介), Percevejo(カメムシ), Tripes(スリップス)に対して有効である。

その他、植物性忌避剤(酢、ニンニク等)の活用と、土着天敵の利用がある。天敵は、エサがなければ生きられないから、それぞれの密度が重要なファクターとなる。

#### ②病害防除

殺菌剤は、酢の活用。酢は一剤で、よくカビ、細菌の両方にきく。500-1.000 倍液を、毎週、隔週、月 1回、病気の程度によって散布するだけだから経済的。

ブラジルでは、草丈 30cm の多年生草本、Cavalinha(学 Equisetum arvense, トクサ科 Equisetaceae) のせんじ汁が、カビ、特に根をおかすカビ病にきくといわれる。200gの乾草を細断して、水 10lとまぜ、20分せんじ、ロカしたもの。

Urtiga vermelha (学 Urtiga urens, イラクサ科, Urticaceae) も同様目的に利用される。

センチュウ対策は、マリゴールド (Cravo-de-defunto, キク科) を輪作に組込む等。

## 2-6. 収穫

薬効成分(アルカロイドや精油等)は、植物により、根、地下茎、種子、果実、樹皮と集中する部位が異なる。ブラジルにおける収穫期は、11-1月に集中する。

Camomilaの薬効成分は、花ビラ中にある。したがって開花最盛期に花のみを収穫する。この時期を過ぎると、花中の薬効成分は急激にさがるので、動員できる労働力によって、栽培面積が決定することになる。

Mentrasato や Artemisia の場合は、薬効成分は、葉中にあり、開花前に収穫する。この時期を逃して開花期にはいると、Alfavacaのように僅か数時間で、成分は失われ、一部は葉から花へ移行する植物もある。

収穫時間は、朝露がきれてからすぐ、および夕刻である。朝露、霧、細雨のもとでは、収穫物が醗酵し、カビがはえる。花や葉をいれる袋は布袋がよく、通気性のないプラスチック袋は使用しない。ダンボール箱、籠も利用する。収穫は、小カマで刈るか、ハサミで切落し、引きちぎったりしない。葉を収穫する場合 1/2にとどめ、裸にしない。花序の、収穫適期はツボミができ始め、ハチ等の訪花昆虫がふえる時期。

地下茎、根の場合は、萎縮し始めたら掘りあげる。

樹皮は雨期には水分を吸い込んでいるので、乾期に手やナタ(Facão) でけずりとる。

種子、果実は、植物が完熟してから。果実はハサミを使って切り取る。収穫物は積み上げない。

## 2-7. 乾燥、保管

### ①自然乾燥

風通しのよい倉庫で、自然乾燥する。その前に、病虫害にかかった部分、昆虫類、ゴミ雑草、砂土石を去除く。機械乾燥は勧めないが、必要な場合、温度は40℃以下とする。また、直射日光で乾燥してはならない。根、地下茎を除き、乾燥機にいれる前に洗わないこと。乾燥後、植物名、収穫調製日を記録したラベルをつける。

歩留は、花ビラ 35%(Borragem 10%)、根 30-70%、葉 20-80%、樹皮 35-60% 程度。

栽培面積に対する乾燥倉庫面積は、乾燥する植物部位により異なるが、10-20%。

### ②乾燥棚

普通、大きさ 50x100cm 深さ 2-5cmの木製引出しの底面に、硬質プラスチック網を張り薄板で網を張り詰めて固定する。これを、棧をつけた枠に、5-6 枚ずつ差し込めるような

乾燥棚を作る。この棚は、葉、花ビラの乾燥用で、花序、全草の場合、引出しを取除き、横棒をわたして、二束に振分けた花序や全草をつり下げる。種子の乾燥の場合も同様。

### ③保管

乾燥後、直ちに販売しない場合、ジュート袋にいれて、つり下げ式に、ゴミのない、昆虫の入りこまない乾燥した冷暗所に保管する。異種の植物の袋を隣接して並べない。

長期保管の場合、においのない、かつ化学接着剤を使っていない木箱に収納する。

## 2-8. 主要薬用植物の栽培要領

### (1) 日照 100% を要求する植物

植物名	植生	草丈	繁殖	土壌	間隔 m	植付	収穫	部位
1. Alecrim	多、灌	0.5m	種、挿	乾、排	1.2x0.9	雨期	年中	葉
2. Anis	1、草	0.5	種子	軽、排	0.7x0.3	秋口	120日	種
3. Arruda	多、灌	1.0	種、挿	ア、石	0.7x0.3	夏	4カ月	花葉
4. Artemisia	多、草	1.2	挿、株	乾、瘦	0.2x0.2	雨期	6-8カ月	全草
5. Assa-peixe	多、灌	3.0	種、挿	瘦、排	5.0x4.0	雨期	年中	葉根
6. Babosa	多、灌	1.0	種子	軽、砂	1.0x0.5	雨期	年中	葉
7. Barbatimão	樹木	6.0	種子	乾、排	6.0x6.0	雨期	成木	樹皮
8. Bardana	1、草	1.0	種子	肥、排	0.5x0.3	春秋	4カ月	葉根
9. Boldo	多、灌	1.5	種、挿	軽、乾	2.0x2.0	雨期	成木	葉
10. Calêndula	多、草	0.4	種子	肥、湿	0.2x0.2	雨期	2カ月	全草
11. Camomila	1、草	0.4	種子	肥、湿	0.5x0.2	秋	4カ月	花
12. Capim-limão	多、草	0.8	株分	普通	1.0x0.4	年中	4カ月	葉根
13. Carqueja	多、草	1.2	種、挿	湿	1.0x0.4	雨期	4カ月	葉
14. Confrei	多、草	0.6	株分	肥、排	0.8x0.8	年中	3カ月	根茎
15. Cratego	樹木	3.0	種子	排水	4.0x4.0	夏	春	花実
16. Embauba	樹木	25.0	種子	湿	4.0x4.0	年中	毎年	葉
17. Erva-baleeira	多灌	3.0	種、挿	湿	4.0x4.0	雨期	成木	葉
18. Erva-cidreira	多灌	0.5	挿木	普通	1.5x0.8	雨期	4カ月	葉花
19. Erva-de-bicho	1.草	0.8	種子	湿	0.2x0.2	雨期	1カ月	全草
20. Estevia	多、草	0.8	挿木	湿	0.5x0.1	雨期	4カ月	葉
21. Eucalipt	樹木	60.0	種子	普通	1.5x1.5	年中	年中	葉花
22. Funcho	多、草	2.0	種子	軽、肥	1.2x0.8	雨期	6カ月	葉根
23. Guarana	多、木性	5.0	種子	肥、深	4.0x4.0	雨期	完熟	種子



植物名	植生	草丈	繁殖	土壤	間隔 m	植付	収穫	部位
24. Hortelã	多、草	0.5	株分	湿、粘	0.3x0.3	年中	6カ月	葉
25. Jurubeba	多、灌	2.5	種子	砂、軽	2.0x1.0	雨期	完熟	葉根
26. Losna	多、草	1.0	挿、株	乾、瘦	0.2x0.2	雨期	6カ月	葉花
27. Lúpulo	多、刈性	6.0	挿木	肥沃	2.0x2.0	春	夏	雌花
28. Malva	多、草	1.0	種子	肥沃	0.5x0.2	雨期	花期	全草
29. Mastruço	1、草	0.7	種、挿	普通	0.8x0.4	雨期	1カ月	花葉
30. Mil-folhas	多、草	0.6	挿、株	粘、肥	0.4x0.2	年中	6カ月	花葉
31. Pata-de-vaca	樹木	3.0	種子	普通	4.0x4.0	雨期	2年	全体
32. Pfaffia	多、灌	1.2	株分	湿、肥	1.0x0.5	雨期	3-4年	根
33. Serralha	1、草	0.5	種子	普、排	0.2x0.2	秋	2カ月	葉
34. Tanchagem	多、草	0.4	種子	湿	0.5x0.2	冬	3カ月	葉
35. Zedoaria	多、草	1.5	根茎	砂、排	0.7x0.3	雨期	7カ月	根茎

(2) 半日陰を要求する薬用植物

植物名	植生	草丈	繁殖	土壤	間隔 m	植付	収穫	部位
01. Angelica	2、灌	2.0	種、挿	湿、粘	0.5x0.4	雨期	2年	根種
02. Caapeba	多、灌	1.5	根分	普通	2.0x1.0	雨期	1年	葉
03. Celidônia	多、草	1.5	種子	普、排	0.8x0.4	雨期	6カ月	全草
04. Cineraria	多、草	1.0	種子	新、排	0.8x0.4	雨期	6カ月	葉花
05. Dente-de-leão	多、草	0.5	種、株	普通	0.2x0.2	雨期	2カ月	葉花
06. Espinheira-santa	樹木	4.0	採苗	肥、排	3.0x3.0	雨期	2年	葉
07. Folha-da-fortuna	多草	1.2	子苗	普、排	1.0x0.5	年中	年中	葉
08. Fura-parede	1、草	1.0	種子	新、湿	0.2x0.2	雨期	2カ月	葉
09. Guacatonga	樹木	4.0	種子	刈土	4.0x4.0	雨期	成熟	葉
10. Guaco	多、刈性	1.2	挿木	普通	1.5x1.0	年中	年中	葉
11. Jaborandi	多、灌	2.0	種子	軽、砂	3.0x3.0	雨期	成木	葉
12. Pacová	多、草	0.6	株分	低湿地	0.8x0.4	雨期	1年	根種
13. Quebra-pedra	1、草	0.2	子苗	普通	0.3x0.2	雨期	3カ月	全草
14. Tipi	多、草	1.0	種子	普通	0.8x0.4	雨期	6カ月	葉根

- 注 1. Anis, Camomila は、収穫期が雨期にはいない様、は種する。  
 2. Embaubaは、メス樹から採種する。  
 3. Espinheira-santa の苗は、原始林から採集。活着に60日要する。  
 4. Folha-da-fortuna は、親株のそばに生える子苗をとる。  
 5. Guaco 採葉する時、柵にからんでいる茎をとらない。  
 6. Quebra-pedra 採集した株を再植する。

## 2-9. 収穫、調製の要領

植物名	収穫開始	時期	部位	乾燥	収量/ha	備考
Alecrim	2-3年目	秋	茎枝	日陰	葉 1.6-2.4ト	乾燥後葉分離
Alfavaca	2年目	12-1/4-5	地上15cm	日陰	葉 1.2-1.5ト	年2 回収穫
Arruda	2年目	12/4-5	花序ごと	日陰	全草 2-2.3ト	年2 回収穫
Babosa	3年目	夏	葉		生葉 20 ト	乾燥品流通
Bardana	葉3-4 カ月	3 カ月毎	葉	40°C	葉 6ト	葉柄を除く
(フコ)	根 2年目	秋	根	70°C	根 20ト	食用 8カ月
Boldo	6 カ月	4-4カ月	葉	40°C	乾葉 0.6-1.2ト	霜に弱い
Calêndura	3 カ月	開花時	花	日陰	乾花 2.5-3ト	頻回数収穫
Camomila	5 カ月	開花時	花	日陰	乾花 0.6-0.8ト	頻回数収穫
Capim-limão	6 カ月	12/4-5	葉	35°C	葉 2-3ト(2-3回)	乾燥前細断
Carqueja	5 カ月	開花時	全草	日陰	全草 1.5-2.5ト	年 2-3回
Catinga-de-mulata	4 カ月	開花時	花	日陰	乾花 1-2ト	年 2回収穫
Confrei	葉 4カ月	2カ月毎	葉	日陰	乾葉 6-10ト	年 6-8回
	根 4年	晩冬	根	日陰	乾根 3-8ト	改植時
Dente-de-leão	葉 4カ月	4 カ月	葉	日陰	乾葉 1.5-2.3ト	年 2-3回
					乾根 1.2-1.7ト	乾燥前細断
Erva-cidreira	葉 5カ月	12-1/4-5	花	日陰	乾葉 2.5-3ト	年 2回収穫
Espinheira-santa	6 年目	春夏	全体の50%	日陰	乾葉1kg/本	収穫 2年毎

植物名	収穫開始	時期	部位	乾燥	収量/ha	備考
Funcho	5 カ月	完熟時	種実	日陰	種実 0.8-2ト	灰緑色時
Guaco	8 カ月	開花時	若枝葉花	35°C	全体 1.5-2.5ト	年2回収穫
Hortelã	4 カ月	開花時	地上部	日陰	全草 2-4ト	年2-3 回刈取
Losna	2 年	夏秋	幼茎葉	日陰	乾葉 1.5-4ト	年2回収穫
Macela	6 カ月	開花時	花	日陰	乾花 0.8-1.2ト	一斉収穫
Malva	6 カ月	開花時	花葉根	日陰	乾葉 1-1.5ト	部位別乾燥
Manjerona	6 カ月	開花時	全草	日陰	乾葉 1.2-1.5ト	年2 回収穫
Maracujá	8 カ月	秋	茎葉	日陰	全体 1.5-2.5ト	完熟後開始
Melissa	6 カ月	開花前	全草	日陰	乾葉 1.5-3ト	暗所で乾燥
Mentrasto	3 カ月	開花前	全草	日陰	全体 1.3ト	
Mil-folhas	4カ月	開花時	花	日陰	乾花 0.8-2.5ト	年2回収穫
Pata-de-vaca	3年	夏	茎葉	日陰	乾葉 1.5-2ト	葉分離
Quebra-pedra	3カ月	夏秋	全草	日陰	全草 3-4ト	
Sabugueiro	6カ月	開花時	花	日陰	乾花 0.6-1ト	暗所乾燥
Salvia	5カ月	12-1/4-5	地上部	日陰	全草 1.5-2.5ト	年2 回刈取
Tanchagem	5カ月	開花前	葉	日陰	乾葉 1.6ト	年2-3回
Tomilho	2年目	4-5 月		日陰	乾葉 0.8-1.2ト	葉分離

## 2-10. 薬草園管理

Estancia Demetria (Botucatu, SP, サンパウロから西方250km)の経営は、毎週 500箱 (7トン) の無農薬野菜の販売でささえられている。

農場の薬草栽培面積は 15ha(内 8haはCamomila)、就労者18名(収穫時50名)。この労力で、別の輪作用農地で、Crotalaria, Feijão-de-porco, Mucuna-preta の3種のマメ科緑肥作物も管理している。

### ① Angelica (学 Angelica archangelica, セリ科, Umbeliferae)

利用部分は根であり、1株につき 50x40cmのスペースが必要なので、は種床にまき、本ばに移植。冬、本ばに定植する40日前、は種する。栽培期間 9カ月、新芽が出そうになった時に収穫(この時期薬効成分最大)。

② Arruda (学 *Ruta graveolens*, ミカン科, Rutaceae)

冬、当年の枝を切り取り、育苗カップに挿木する。移植は夏。植付間隔は 30x25cm。  
4 カ月後に採葉、さらに 4カ月後採葉。

③ Capim-limão(学 *Cymbopogon citratus*, イネ科, Gramineae)

雑草のように生育旺盛。ただし降雨が必要。植付間隔は(60-80)x(10-20)cm。草丈が、  
40-50cm となり、株を形成する頃、採葉する。株は再発芽する。傾斜地では、土壌流亡の  
防止をかねて栽培する。

④ Camomila (学 *Matricaria chamomilla*, キク科, Compositae)

種子が小さいから砂と混ぜて、本ばに直まき。間隔は 30x25cm。利用部位は花。収穫量  
が多く、労力を集中的に要するので 15-20日間隔で種子まきをする。時期は 4-7月 (冬)  
開花は 3-4カ月後。一斉に開花しない。乾燥機のなかに落ちた種子は、翌年利用する。

⑤ Confrei (学 *Symphytum officinale*, ムラサキ科, Boraginaceae)

株分でふやす。間隔 50x(20-30)cm。年中植えられる。草丈 50cm で葉を収穫。他の  
薬用植物と異なり、6-7 年同一ほ場において生産可能。

⑥ Mil-folhas (学 *Achillea millefolium*, キク科, Compositae)

収穫時にとった新芽を植替してふやす。7-8 月 (冬) 植付、11-12 月 (春) 収穫。植付  
間隔 30x25cm。花序が開き、白っぽくなったらカマで刈取る。

⑦ Melissa (学 *Melissa officinalis*, シソ科, Labiadae)

香料作物。ホフク茎でふやせる。生育初期の高温に耐えないので、夏には植えない。  
2カ月で刈取る。同一ほ場に 1年以上連作しない。

⑧ Hortelã(学 *Mentha crispa/piperita/pulegium/spicata*, シソ科, Labiadae)

花が咲かないから種子はなく、株分でふやす。年中植付可能。約40日で草丈 15-20cmと  
なり収穫できる。ハッカは肥沃な土壌を好むから刈取後液状きゅう肥をいれる。ホフク茎  
の節から根をおろし、活発にふえていく。

⑨ Tanchagem (学 *Plantago major*, オオバコ科, Plantaginaceae)

種子でふやす。湿度のある土壌を好む。種まきは冬。薬効成分のある葉は、種子まき  
後 3-4カ月、夏に刈取る。 □

### 第3章 薬用植物の概説

#### A-01. Abacate (学 *Persea americana*, クスノキ科, Lauraceae)

別名 英 Avocado  
生態性状 中米原産。熱帯、亜熱帯で栽培。砂質土壌を好む。  
利用部位 葉、花、果実、樹皮 || 化学成分 精油  
薬効 肝腎炎、胃腸炎、生理閉止、リュウマチ、痛風、歯肉炎  
用法用量 3%のお茶(葉, 日量 100ml) 口内炎、催吐の目的には生葉をかむ。

#### A-02. Abacaxi (学 *Ananas sativus*, パイナップル科, Bromeliaceae)

別名 Ananas, ス, Pina, 英, Pineapple  
生態性状 熱帯果実。排水のよい肥沃な土壌を好む。  
利用部位 果実 || 化学成分 酵素(Bromeline)  
薬効 消化 || 用法用量 生食

#### A-03. Abiu (学 *Lucuma caimito*, アカテツ科, Sapotaceae)

別名 Abieiro, Abiiba, Abiu-grande, Caimito(ペルー)  
生態性状 ペルー熱帯地方原産。ブラジルでは河川沿岸に栽培。  
利用部位 果実、種子(油) || 化学成分 精油、タンニン  
薬効 肺、気管支炎、耳炎 || 用法用量 お茶、耳炎(温種子油)

#### A-04. Abobora-do-mato(学 *Melothria fluminensis/warmingii*, ウリ科)

別名 Cereja-de-purga, Guardião, Melão-de-morcego, Taiuia-miudo  
生態性状 ブラジル原産。ツル状。  
利用部位 葉、花 || 化学成分 精油  
薬効 子宮疾患、生理、おりもの || 用法用量 お茶

#### A-05. Abricó-do-pará(学 *Mammea americana*, オトギリソウ科, Guttiferae)

別名 Abricó-de-são-domingo, Abricó-selvagem 英 Mammee apple  
生態性状 中米原産の樹木。高温多湿を好む。Rio以北の海岸地帯で栽培。  
利用部位 果実、種子 || 化学成分 精油  
薬効 高血圧、結石除去、動脈硬化 || 用法用量 生食

A-06. *Abutua*(学 *Cissampelos pareira/vitis*, ツツラフジ科, Menispermaceae)

別名 Butua, Iroba, Jabuticaba-de-cipo, Parreira-brava, Uva-do-mato  
生態性状 アマゾン原産。ツル性。ブドウ状の房。セラードに分布。  
利用部位 根 (2-6cm の乾根で流通) || 化学成分 アルカロイド  
薬効 利尿、解熱、結石除去 || 用法用量 1%のお茶、日量 400ml  
備考 *Abutua-pequena* (学 *C. ovarifolia*) あり。作用はやや弱い。

A-07. *Abutua-miúda*(学 *Cocculus filipendura*, ツツラフジ科, Menispermaceae)

別名 Butua-miúda  
生態性状 ブラジル原産のカン木。根が太く硬い (*Abutua*の根は細く軟らか)  
利用部位 根、樹皮 || 化学成分 アルカロイド  
薬効 解熱、生理不調、子宮炎 || 用法用量 1%のお茶、日量 400ml

A-08. *Acapurana*(学 *Campsiandra laurifolia*, マメ科, Leguminosae)

別名 Capoerana, Comanda-acu, Cumanda, Manaiara  
生態性状 アマゾン原産の中小木。河川湖沼の浸水地に自生。  
利用部位 果実、樹皮 || 化学成分 精油  
薬効 Empigem(ヘルペス) 外傷 || 用法用量 煎汁 (酢+塩) で外用

A-09. *Acaricoba* (学 *Hydrocotyle bonariensis*, セリ科, Umbeliferae)

別名 Acaciroba, Acaricaba, Barbarosa, Erva-do-capitão  
生態性状 Rio de Janeiro州以南、各地の低地。匍匐性。  
利用部位 全草 || 化学成分 精油  
薬効 食欲増進、利尿、吐剤 || 用法用量 2%のお茶、日量 500ml  
備考 学、*H. umbellata* あり

A-10. *Acerola* (学 *Malpighia glabra*, キントラノオ科, Malpighiaceae)

別名 Cerejeira-das-antilhas  
生態性状 中米原産のカン木。ビタミンC含量は果実中で最高 (2-5%)。  
利用部位 果実、樹皮 || 化学成分 タンニン  
薬効 風邪、気管支炎、糖尿病 || 用法用量 生食、樹皮は煎汁。

A-11. Açoita-cavalo (学 *Luhea grandiflora*, シナノキ科, Tiliaceae)

別名 Caá-abeti, Ibitinga, Ivantiji, Mutamba-preta, Papeá-guaçu  
生態性状 アマゾン河沿岸のTerra firme(高台) 大木。枝は非常にしなやか。  
利用部位 樹皮 || 化学成分 タンニン  
薬効 出血、リウマチ、関節炎 || 用法用量 2%のお茶、日量 500ml  
備考 Acoita= 鞭打つ。Cavalo= 馬 || 東南部に *L. ochrophylla* あり

A-12. Aglaia (学 *Aglaia odorata*, センダン科, Meliaceae)

別名  
生態性状 シトロネラ様の芳香を放つ東南アジア原産の樹木。方刈に順化。  
利用部位 樹皮 || 化学成分 精油  
薬効 ケイレン (ふるえ) || 用法用量 お茶

A-13. Agoniada (学 *Plumeria lancifolia*, キョウチクトウ科, Apocinaceae)

別名 Agonium, Arapue(隠語)  
生態性状 南部海岸山脈内に分布。大木。樹皮は苦い。  
利用部位 樹皮、葉 || 化学成分 アルカロイド (有毒)  
薬効 ヒステリー、喘息、生理 || 用法用量 2%のお茶、日量 500ml  
備考 妊娠中絶、避妊薬として、闇利用される。危険。

A-14. Agrião(学 *Sisymbrium nasturtium-aquaticum*, アブラナ科, Cruciferae)

別名 Agrião-da-água, 英 Water cress, 日 クレソン  
生態性状 チリー原産の水生野菜。越年性。冷たい流れ水を好む。  
利用部位 葉 || 化学成分 精油  
薬効 利尿、糖尿、収れん || 用法用量 サラダ、青汁。  
備考 属 *Nasturtium* あり

A-15. Agrião-do-pará (学 *Spilanthus oleracea*, キク科, Compositae)

別名 Agrião-do-brasil, Jambu, Jambu-açu  
生態性状 低湿地。クレソンより苦みが強い。  
利用部位 葉 || 化学成分 精油  
薬効 クレソンと同じ || 用法用量 サラダ、青汁。  
備考 *Acmela* (学 *S. acmella/mauritiana*) の花茶は、健胃剤として有名。

A-16. Agrimonia (学 Agrimonia eupatoria, バラ科, Rosaceae)

別名  
生態性状 草丈1m。黄色の花序と、イガつき果実が特徴  
利用部位 葉、根 || 化学成分 精油、タンニン  
薬効 打撲傷、下痢 || 用法用量 2%のお茶。外用

A-17. Aipo-do-rio-grande (学 Apium australe, セリ科, Umbelliferae)

別名 食用のセロリー、Aipo, Salsão(学 A. graveolens) と同属  
生態性状 東南部、南部地方に自生  
利用部位 葉、根、種子 || 化学成分 精油  
薬効 消化、利尿 || 用法用量 生食、2-3%のお茶  
備考 糖尿病患者のサラダとして利用、妊産婦の大量摂取は不可

A-18. Alamanda-de-flor-grande (学 Allamanda cathartica, キョウチクトウ科)

別名 Cipó-de-leite, Santa-maria (Amazonia)  
生態性状 低湿地に生え、ツル性。  
利用部位 樹皮、乳液 || 化学成分 精油  
薬効 外部寄生虫 || 用法用量 浴用(10%液)  
備考 属名 Orelia あり

A-19. Albina (学 Turnera ulmifolia, ターネラ科, Turneraceae)

別名 Chanana  
生態性状 アマゾンの高台。硬質の草本  
利用部位 全草 || 化学成分 精油  
薬効 糖尿病、蛋白尿 || 用法用量 2%のお茶、日量 500ml

A-20. Alcachofra (学 Cynara scolymus, キク科, Compositae)

別名 ブラジル局方収載 英 Artichoke, アーティチョーク  
生態性状 欧州原産の薬用野菜。S. Paulo以南の温暖な気候地帯で栽培。  
利用部位 葉、花たく || 化学成分 フラボノイド、精油  
薬効 肝臓機能強化、利尿、痛風 || 用法用量 3%のお茶 日量 200ml



A-21. Alcaçuz-da-terra (学 *Periandra dulcis*, マメ科, Leguminosae)

別名 Alcaçuz-do-cerrado, Cipó-em-pau-doce, Raiz-doce  
生態性状 中西部から南部にかけての高原の石レキ地にみられるカン木。  
利用部位 根 || 化学成分 タンニン、精油  
薬効 セキどめ、利尿、下剤 || 用法用量 2%のお茶。日量 400ml  
備考 丹毒(*Erisipela*) には、乾根粉末に少量の小麦粉をねり、貼付。

A-22. Alcaçuz-da-europa (学 *Glycyrrhiza glabra/americana*, マメ科)

別名 Alcaçuz-da-terra, Raiz-doce  
生態性状 1-2mのカン木。  
利用部位 根 || 化学成分 タンニン、精油  
薬効 喉頭、気管支炎、 || 用法用量 2%のお茶、日量 500ml

A-23. Alcaravia (学 *Carum carvi*, セリ科, Umbeliferae)

別名 Cominho-dos-prados, 英 Caraway, キャラウェイ  
生態性状 南、中欧でよく知られており、種子が香料作物。オランダでは栽培。  
利用部位 種子 || 化学成分 精油、ロウ  
薬効 利尿、腸内ガス、ひ乳促進 || 用法用量 5%のお茶。日量 200ml

A-24. Alecrim (学 *Rosmarinus officinalis/hortensis*, シソ科, Labiadae)

別名 Alecrim-de-cheiro, Alecrim-de-jardim, 英 Rosemary ロズマリ  
生態性状 地中海沿岸原産。17世紀ブラジルへ。花は白、紫色。草丈 50cm  
利用部位 葉 || 化学成分 精油  
薬効 肝機能回復、消毒剤 || 用法用量 4%のお茶。日量 100ml

A-25. Alecrim-da-praia (学 *Bulbostyles capillaris*, 灯心草科, Cyperaceae)

別名  
生態性状 海岸の砂地。小さな草本。  
利用部位 全草 || 化学成分 精油  
薬効 リウマチ || 用法用量 浴用

A-26. Alecrim-da-serra (学 *Dichiptera aromatica*, キツネノマゴ科, Acanthaceae)

別名  
生態性状 東北地方の Caatinga(疎林) に生える小カン木。  
利用部位 樹木全体、葉 || 化学成分 精油  
薬効 リウマチ || 用法用量 浴用

A-27. Alecrim-do-mato (学 *Baccharis macrodonta*, キク科, Compositae)

別名 Alecrim-de-vassoura, Vassoura, Vassoureira, Vassourinha  
生態性状 草丈 2-3m のカン木。Minas 州以南の荒地に分布。種子繁殖。  
利用部位 葉 || 化学成分 精油  
薬効 疲労、発熱、消化, リウマチ || 用法用量 お茶

A-28. Alfafa (学 *Medicago sativa*, マメ科, Leguminosae)

別名 Luzerna, ス Mielga  
生態性状 方洲南部で栽培。多年生牧草。  
利用部位 全草 || 化学成分 精油  
薬効 強壮剤、クル病 || 用法用量 浴用

A-29. Alfavaca (学 *Ocimum basilicum*, シソ科, Labiatae)

別名 Basilica, Manjeriçã, 英 Basil バジル  
生態性状 香辛料作物。方洲以北で栽培。  
利用部位 葉、種子 || 化学成分 精油  
薬効 結石、咳、発熱、胃腸 || 用法用量 1%のお茶 日量500ml  
備考 Alfavaca-do-campo (学 *O. incanescens*)  
Alfavaca-de-cheiro (学 *O. incanum fluminensis*)

A-30. Alfazema (学 *Lavandura officinalis/vera*, シソ科, Labiatae)

別名 Lavanda, Lavandura, 英 Lavender, ラベンダー  
生態性状 欧州原産の小カン木で、方洲に順化。香辛料植物。  
利用部位 葉、全草 || 化学成分 精油  
薬効 鎮静、消化、腸内異常發酵 || 用法用量 1%のお茶 400ml  
備考 リウマチ、神経痛症状改善には、全草の煎汁を熱湿布する。

A-31. Algodão (学 *Gossypium herbaceum*, アオイ科, Malvaceae)

別名 Amaniu (インジオの種族の名)  
生態性状 栽培されている草綿。  
利用部位 葉、花、根、種子 || 化学成分 精油  
薬効 下痢、尿管障害、止血 || 用法用量 1%のお茶 日量 500ml  
備考 火傷、外傷には、葉や青汁をすりこむと、鎮痛する。

A-32. Altéia (学 *Althaea officinalis*, アオイ科, Malvaceae)

別名 Malvaíscó, Malvavisco (Malva-rosa, 学 *A. rosea* はブラジルにない)  
生態性状 欧州原産。湿地に多い多年生植物。草丈 0.5-1.0メートル。  
利用部位 花、葉、根 || 化学成分 粘質物、アスパラギン  
薬効 セキどめ、発汗、外傷はれ || 用法用量 2%のお茶。日量500ml  
備考 皮膚の発疹には温湿布、ローション。便秘には、浣腸。

A-33. Amapá (学 *Parahancornia amapa*, キョウチクトウ科, Apocinaceae)

別名  
生態性状 アマゾン地方の台地(Terra firme)の森林中に分布。大木。  
利用部位 苦い乳液(Latex) || 化学成分 精油  
薬効 外、打撲傷、呼吸器疾患 || 用法用量 湿布、塗布

A-34. Amapá-doce (学 *Brosimum paraense/potabile*, クワ科, Moraceae)

別名 Amapá(Amazonia), Conduru-de-sangue  
生態性状 アマゾン台地 (Terra firme)の大木。  
利用部位 白い乳液(Latex) || 化学成分 精油  
薬効 強壯剤 || 用法用量 少量をなめる。

A-35. Amaranto (学 *Amaranthus spp.*, ヒユ科, Amaranthaceae)

別名 Bredo, Caruru, Caruru-de-folha-larga, Caruru-gigante  
生態性状 数千年前からインジオに知られ世界中に分布している草本。  
利用部位 葉、根 || 化学成分 精油  
薬効 呼吸器、下剤 || 用法用量 1%のお茶、吸入

A-36. Ambreta (学 *Hibiscus abelmoschus*, アオイ科, Malvaceae)

別名 Quiabo-de-cheiro, Quiabo-cheiroso  
生態性状 Amazoniaから Bahia州に分布する小カン木。  
利用部位 種子 || 化学成分 精油  
薬効 健胃剤、心臓の強壯剤 || 用法用量 コーヒーの如く調製

A-37. Ameixa (学 *Prunus domestica*, バラ科, Rosaceae)

別名 Ameixeira(樹)  
生態性状 欧州原産。ブラジル南部高原で栽培。カン木  
利用部位 果実 || 化学成分 精油  
薬効 下剤、痛風、風邪、動脈硬化 || 用法用量 60g 果肉/リットルのお茶

A-38. Amendoa (学 *Amygdalus communis*, バラ科, Roseaceae)

別名  
生態性状 アフリカ原産の樹木。南部地方で栽培  
利用部位 種実(油分) || 化学成分 配糖体、精油  
薬効 皮膚炎、セキどめ、下剤、けいれん止め、胃酸過多、胃潰瘍、結石  
用法用量 1%のお茶。日量 300ml。油分は外傷のはれにつける。

A-39. Amora-da-mata (学 *Helicostylis tomentosa*, クワ科, Moraceae)

別名  
生態性状 アマゾンから南部海岸山脈内に自生。  
利用部位 種実 || 化学成分 精油  
薬効 貧血、胃潰瘍、食欲不振 || 用法用量 生食、お茶

A-40. Amora-negra (学 *Morus nigra*, クワ科, Moraceae)

別名 Amora-preta  
生態性状 中東原産。ブラジル南部各地で栽培。  
利用部位 根皮、果実、葉 || 化学成分 精油  
薬効 糖尿病、腎炎、痛風、関節炎 || 用法用量 お茶

A-41. Amor-crescido (学 *Portulaca pillosa*, スベリヒユ科, *Portulacaceae*)

別 名  
生態性状 熱帯アメリカ原産。全国に分布する多肉の草本。ゆでて食用にする。  
利用部位 全草 || 化学成分 精油  
薬 効 下痢 || 用法用量 1%のお茶 日量 500ml

A-42. Amor-perfeito (学 *Viola tricolor/arvensis*, スミレ科, *Violaceae*)

別 名 *Violeta-tricolor*, 三色スミレ  
生態性状 栽培花き。  
利用部位 葉、花 || 化学成分 精油  
薬 効 浄血、皮膚病、腺病質 || 用法用量 葉 2, 花 1% のお茶  
備 考 関節リウマチに対して、煎汁、湿布が有効。

A-43. Anabi (学 *Potalia amara*, フジウツギ科, *Loganiaceae*)

別 名 *Pau-de-cobra*  
生態性状 小カン木。アマゾン地方の *Terra firme* の森林内に分布。  
利用部位 葉 || 化学成分 精油  
薬 効 バイ毒、尿道炎、眼炎 || 用法用量 煎汁を外用

A-44. Anani (学 *Symphonia globulifera*, オトギリソウ科, *Guttiferae*)

別 名 *Anambi*, *Ananim*, *Oanani*  
生態性状 アマゾン各地。黄色の *Bleu de anani* (アナニ樹脂) がとれる  
利用部位 樹脂 || 化学成分 樹脂  
薬 効 リウマチ、腫瘍 || 用法用量 外用

A-45. Anauerá (学 *Licania macrophylla*, バラ科, *Rosaceae*)

別 名 *Anauirá*  
生態性状 アマゾニアの河川沿岸の浸水した森林内に分布。  
利用部位 樹皮 || 化学成分 タンニン  
薬 効 潰瘍 || 用法用量 1-2%のお茶

A-46. Anavinga (学 Casearia ovata, イイギリ科, Flacourtiaceae)

別 名

生態性状 アマゾン河上流に分布する樹木。

利用部位 葉、種実、樹皮 || 化学成分 タンニン、精油

薬 効 リューマチ、利尿、強壯 || 用法用量 1-2%のお茶

A-47. Andá-açu (学 Joannesia princeps, トウダイグサ科, Euphorbiaceae)

別 名 Andá, Coco-da-purga, Cutieira, Fruta-de-arara, Indaguaçu

生態性状 大木。材木はマッチの軸木、製紙用。

利用部位 樹脂、種実 || 化学成分 精油

薬 効 下剤、生理不調、間けつ熱 || 用法用量 お茶

A-48. Andira (学 Andira anthelmintica/ormosioides, マメ科, Leguminosae)

別 名 Angerim-amargo, Aracium, Lumbricida, Morcegueira

生態性状 アマゾンから東北地方にかけての各州に分布。大木。

利用部位 種子 || 化学成分 精油、タンニン

薬 効 内部寄生虫駆除、下剤

用法用量 種子をいって粉末とし、少量の水、牛乳とまぜて、早朝飲用。

備 考 Andira-rósea (学 A. fraxinifolia)、Andirá-uchi (学 A. inermis)  
いずれも駆虫作用あり。

A-49. Andiroba (学 Carapa guianensis, センダン科, Meliaceae)

別 名 Andiroba-aruba/saruba, Carapa

生態性状 アマゾンからバイア州にかけて分布する大木。

利用部位 樹皮、葉、種実 || 化学成分 精油

薬 効 内服 (駆虫、解熱) 外用 (皮膚病、潰瘍) 種実は下剤

用法用量 お茶。油分は害虫のさし傷に塗布する。

A-50. Angélica (学 Archangelica officinalis, セリ科, Umbeliferae)

別 名 Angélica-do-jardim, Archangélica, Raiz-do-espírito-santo

生態性状 草丈 1.5-2.5m。北欧原産だが、ブラジル南部各地に定着。

利用部位 根、種子 || 化学成分 精油、タンニン、樹脂

薬 効 利尿、消化器の機能促進 || 用法用量 2%のお茶。日量 500ml

A-51. *Angélica-do-mato* (学 *Guettarda angelica*, アカネ科, Rubiaceae)

別名 *Angélica-mansa*  
生態性状 Piaui からS. Paulo州までの主として海岸地帯に分布。カン木。  
利用部位 根 || 化学成分 精油  
薬効 貧血、黄熱病、産褥熱 || 用法用量 お茶

A-52. *Angelicó* (学 *Aristolochia cymbifera/trilobata*, ウリスノ科)

別名 *Caçaú, Calunga, Jarrinha, Mil-homens, Papo-de-peru, Urubu-caá*  
生態性状 ツル性の木本。この科(Aristolochiaceae)50種の薬効は、ほぼ同じ。後産(Loquio)を停滞させない「安産薬」の意。  
利用部位 根 || 化学成分 精油  
薬効 消毒、発汗、鎮痛、生理 || 用法用量 1%のお茶、日量 300ml  
備考 3-5%の煎汁は、ヒゼン、潰瘍等に外用できる。

A-53. *Angelim-coco* (学 *Andira stipulacea/legales*, マメ科, Leguminosae)

別名 *Angelim-doce, Muirarema, Pau-pintado, Urarema*  
生態性状 ほぼ全国に分布。  
利用部位 樹皮、種子 || 化学成分 精油、タンニン  
薬効 駆虫剤 || 用法用量 お茶

A-54. *Angelônia* (学 *Angelonia integerrima*, マノハダ科, Escrofulariaceae)

別名 *Violeta-de-petrópolis*  
生態性状 Rio de Janeiro州以南に分布するカン木。  
利用部位 樹皮 || 化学成分 タンニン  
薬効 鎮静、鎮咳、けいれん || 用法用量 お茶

A-55. *Angico* (学 *Piptadenia colubrina*, マメ科, Leguminosae)

別名 *Angico-branco, Cambui, Parica*  
生態性状 Pará⇒São Paulo 州に分布する樹高 30mに達する大木。  
利用部位 樹皮、樹脂 || 化学成分 タンニン、粘質物  
薬効 樹皮は収れん剤、樹脂はセキ、喘息、気管支炎の治療。外傷の手当。  
用法用量 2%のお茶。日量 500ml

A-56. Angustura (学 *Cusparia angustura/trifoliata*, ミカン科, Rutaceae)

別名 Amarelo, Amarelinho-da-serra, Cuspare  
生態性状 南米北部、Venezuela の Orenoco河沿岸に分布。  
利用部位 樹皮 || 化学成分 アルカロイド、配糖体  
薬効 強壯、解熱、下痢どめ || 用法用量 2%のお茶 日量 200ml  
備考 アマゾニア、東北地方に、*Angustura-verdadeiro* (真正の) が自生。  
学名 *Galipea alba*, *G. cusparia*, *G. febrifuga*。薬効は同じ。

A-57. Anil (学 *Indigofera anil*, マメ科, Leguminosae)

別名 Anileira-verdadeira(樹木), Caáchica, Caaobi, Timbó-mirim  
生態性状 染料の Anil がとれるカン木。  
利用部位 葉、根 || 化学成分 精油  
薬効 解熱、下剤、鎮痛、黄だん || 用法用量 0.5%のお茶 日量 200ml

A-58. Anil-trepador (学 *Vitis sicyoides*, ブドウ科, Vitaceae)

別名 Achite, Caavurana-de-cunhã, Tinta-dos-gentios, Uva-brava  
生態性状 Ceará ⇨ Rio州に自生。ツル性。  
利用部位 根 || 化学成分 精油  
薬効 リューマチ、水腫 || 用法用量 お茶  
備考 =学 *Cissus tinctoria*

A-59. Aninga (学 *Montrichardia arborescens*, サトイモ科, Araceae)

別名 Aningauba, Aninga-de-espinho, Aninga-do-pará, Imberana  
生態性状 河川湖沼の沼沢地、浸水地(Varzea)周辺。  
利用部位 根、生葉(もんで使う) || 化学成分 精油  
薬効 利尿、峻下剤、外傷(葉) || 用法用量 お茶(頓服)

A-60. Anis (学 *Pimpinella anisum*, セリ科, Umbeliferae)

別名 Erva-doce  
生態性状 欧州原産。18世紀にはいった草丈 30-50cmの草本。  
利用部位 種子 || 化学成分 精油、樹脂  
薬効 胃腸ガス、鎮静、利尿 || 用法用量 4%のお茶  
備考 属 *Anisum*, *Carum* あり



A-61. Apé (学 *Urospatha caudata*, サトイモ科, Araceae)

別名  
生態性状 アマゾン各地に自生。  
利用部位 地下茎 || 化学成分 精油  
薬効 Empigem(Herpes, 疱疹) || 用法用量 すりつぶして塗布。

A-62. Aperta-ruão (学 *Piper aduncum*, コショウ科, Piperaceae)

別名 Jaborandi-do-mato, Pimenta-de-fruto-ganchoso, Tapa-braco  
生態性状 ブラジル北部、東北部に自生する 1m 程度のカン木。  
利用部位 根を除く全草 || 化学成分 タンニン、精油、樹脂  
薬効 利尿、痔疾 || 用法用量 2%のお茶。外用(2-5%)  
備考 属名 *Arthante*, *Stephensia* あり

A-63. Apuí (学 *Clusia insignis/grandiflora*, 朴栲科, Guttiferae)

別名 Cebola-grande-da-mata, Guapoí, Mata-pau  
生態性状 アマゾン地帯のツル性着生植物で、寄生して枯死させる。  
利用部位 樹皮(樹脂)花 || 化学成分 精油、タンニン  
薬効 下剤 || 用法用量 塗薬  
備考 花から抽出する黄赤色の精油は、カオ・バウ とまぜ、乳頭につける。

A-64. Araçá-vermelho(学 *Psidium cattleianum/variable*, フトイ科, Myrtaceae)

別名 Araçá-de-comer, Araçá-do-campo, Araçá-do-mato, Araçá-rosa  
生態性状 海岸地帯に分布。カン木。  
利用部位 樹皮 || 化学成分 精油、タンニン  
薬効 止血 || 用法用量 外用  
備考 Araçá-da-pria(学 *P. littorale*)も、同作用。

A-65. Arapabaca (学 *Spigelia anthelmia*, フジウツギ科, Loganiaceae)

別名 Arapacaba, Erva-lombrigueira  
生態性状 家畜に対し有毒植物。麻醉性あり。  
利用部位 全草(根も含む) || 化学成分 精油(Espigeline)  
薬効 駆虫 || 用法用量 大人 3g 以上は有毒  
備考 生薬をばらまくと、アブラムシを忌避する。

A-66. Arapari (学 *Macrolobium acaciaefolium*, マメ科, Leguminosae)

別名	Fava-de-tambaqui, Faveira		
生態性状	アマゾン河流域。中高木。		
利用部位	樹皮	化学成分	タンニン、精油
薬効	下痢どめ、収れん剤	用法用量	お茶

A-67. Araracanga (学 *Aspidosperma desmanthum*, キョウワカ科, Apocinaceae)

別名	Ararauba-da-terra-firme		
生態性状	アマゾン河流域の高台 (Terra firme) に分布する大木。		
利用部位	葉	化学成分	精油
薬効	解熱剤	用法用量	お茶

A-68. Arara-tucupé (学 *Parkia oppositifolia*, マメ科, Leguminosae)

別名	Arara-tucupi, Japacanim, Paricá, Visgueiro		
生態性状	アマゾンの砂質の高台 (Terra firme) の森林中に生える高木。		
利用部位	樹皮	化学成分	タンニン、精油
薬効	収れん剤、止血剤	用法用量	傷口潰瘍の洗浄

A-69. Araticum (学 *Anona exalbida*, バンレイシ科, Annonaceae)

別名	Araticum-alvadio/apé/-mata/-de-espinho		
生態性状	中南部各地の森林中。カン木から小木。		
利用部位	葉、果実	化学成分	精油
薬効	リウマチ、下痢、粘膜炎症	用法用量	お茶
備考	Rollinia 属あり		

A-70. Araticum (学 *Anona glabra/palustris/longifolia/sericea*, バンレイシ科)

別名	Araticum-pana/caca/cortica/de-jangada/do-mangue/Emvireira		
生態性状	アマゾン河流域各地。カン木から小、中木。		
利用部位	果実、果皮、葉	化学成分	酵素、精油
薬効	駆虫、リウマチ、	用法用量	お茶
備考	<i>Anona longifolia</i> の果実は、リンゴ大、赤い果肉で美味。		

A-71. Aricuri (学 *Cocos coronata*, ヤシ科, Palmae)

別名 Butia, Butiazeiro, Coco/coqueiro-cabecudo, Ouricuri, Uricuri  
生態性状 東北地方各地。  
利用部位 果汁 || 化学成分 精油  
薬効 眼病 || 用法用量 点眼

A-72. Arnica (学 *Arnica montana*, キク科, Compositae)

別名 局方収載。Arnica-verdadeira, Tabaco-de-montanha  
生態性状 欧州の山岳地帯原産。ブラジルでも栽培  
利用部位 全草 || 化学成分 精油、樹脂、色素  
薬効 内服、心鼓動刺激、血流促進。外用、外傷の手当。  
用法用量 1%のお茶。日量 400ml。外用 10%煎汁。

A-73. Aroeira (学 *Schinus terebinthifolius*, ウルシ科, Anacardiaceae)

別名 Aguaraíba, Aroeira mansa/vermelha/do-brejo/do-sertão, Cambui  
生態性状 樹高 5-10m、樹径 30-60cm。Pernambuco⇒南Rio Grande州まで分布。  
利用部位 樹皮、葉 || 化学成分 タンニン、精油  
薬効 呼吸器、消化器、利尿、解熱、咯血、血便の止血  
用法用量 2%のお茶。葉の煎汁は、痛風、リウマチの痛み軽減。

A-74. Arrebenta-cavalo (学 *Solanum arrebenta*, ナス科, Solanaceae)

別名 Arrebenta-boi, Baba, Melancia-da-praia, Mingola  
生態性状 東北地方に自生。家畜にとって有毒植物。  
利用部位 全草 || 化学成分 精油  
薬効 あざ、そばかす、かぶれ || 用法用量 外用(煎汁)  
備考 学、*S. agraricum*, *aculeatissimum* あり

A-75. Arruda (学 *Ruta graveolens/montana/sativa*, ミカン科, Rutaceae)

別名 Arruda-domestica/fedorenta/dos-jardins  
生態性状 南欧原産。南部各地で栽培。1-1.5mのカン木。  
利用部位 葉、花 || 化学成分 精油、7-β/β  
薬効 生理、胃腸、リウマチ || 用法用量 2%のお茶  
備考 妊婦は流産の危険あり。

A-76. *Artemisia* (学 *Artemisia vulgaris*, キク科, Compositae)

別名 Erva-de-são-joão, Flor-de-são-joão, Artemigem  
生態性状 全欧原産。ブラジルでも各地に栽培。雨期の始め株分でふやす。  
利用部位 葉、花 || 化学成分 精油、樹脂、タンニン  
薬効 胃、肝、腎炎、リウマチ、|| 用法用量 2%のお茶、日量 400ml。  
備考 Sao Francisco 河沿岸に、*Artemisia-do-campo* (学 *A. campestris*) が分布しており、葉を止血に利用している。

A-77. *Árvore-de-umbrela* (学 *Cordia umbraculifera*, マリ科, Boraginaceae)

別名 Pará-pará, Chapéu-de-sol  
生態性状 アマゾン河下流地域。小中木。街路樹に利用。  
利用部位 葉(青汁) || 化学成分 精油  
薬効 眼科疾患 || 用法用量 洗眼

A-78. *Árvore-dos-feiticeiros* (学 *Connarus patrisii*, 科不詳)

別名  
生態性状 アマゾンから 中西部地方にかけて自生する小木。  
利用部位 種子 || 化学成分 精油  
薬効 疲労回復、強壮 || 用法用量 お茶  
備考 Feiticeiro = 巫術者、妖術者

A-79. *Assacu-rana* (学 *Erythrina glauca*, マメ科, Leguminosae)

別名 Acacurana  
生態性状 アマゾン低湿地の小中木。美しい赤オレンジ色の花をつける。  
利用部位 根 || 化学成分 精油  
薬効 リウマチ || 用法用量 お茶

A-80. *Assa-peixe* (学 *Vernonia polyanthes*, キク科, Compositae)

別名 Cambara-guaçu/branco, Chamarrita  
生態性状 樹高 3m のカン木。東北、東南部地方各地に分布  
利用部位 葉、根 || 化学成分 アルカリ、配糖体、ワゾノド  
薬効 カゼ、呼吸器、利尿、結石 || 用法用量 お茶(根)

A-81. Assa-peixe(学 *Boehmeria arborescens*, イグサ科, Urticaceae)

別名  
生態性状 東北から南部地方に自生。カン木。  
利用部位 根 || 化学成分 精油  
薬効 打撲傷、痔、潰瘍 || 用法用量 外用、お茶  
備考 学名、*B. petrolaris* 属名 *Urtica caudata* あり

A-82. Aturiá (学 *Machaerium ferox/lunatum*, マメ科, Leguminosae)

別名 Juquiri  
生態性状 アマゾンの低湿地(Varzea)の平地(Campo)に自生するツル性カン木。  
利用部位 葉 || 化学成分 精油  
薬効 外傷の消散 || 用法用量 外用、湿布  
備考 属名 *Drepanocarpus* あり

A-83. Auíba (学 *Xylosma benthami/digynum*, イイギリ科, Flacourtiaceae)

別名 Aui-uva  
生態性状 アマゾン自生の小木。  
利用部位 樹皮 || 化学成分 精油、タンニン  
薬効 取れん剤 || 用法用量 お茶

A-84. Aveloz (学 *Euphobia entheurodoxa*, トウダイグサ科, Euphorbiaceae)

別名  
生態性状 東北地方に自生  
利用部位 乳液 (Latex) || 化学成分 脂肪酸  
薬効 外傷、腫瘍の消散 || 用法用量 外用 (冷湿布)

A-85. Avenca (学 *Adiantum capillus-veneris*, ウラボシ科, Pteridaceae)

別名 Samanbaia  
生態性状 欧州原産だが、ブラジルの気候土壤に順化して観葉植物として栽培。  
利用部位 葉 || 化学成分 精油  
薬効 気管支炎、セキ、のどの痛み || 用法用量 1%のお茶  
備考 属名 *Avenca, Veneris* あり

A-86. Azeda-do-brejo (学 *Oxalis palustris*, カタバミ科, Oxalidaceae)

別名 Caruru-de-sapo  
生態性状 中西部地方の沼沢地に自生する草本  
利用部位 全草 || 化学成分 精油  
薬効 解熱、喉の炎症 || 用法用量 お茶、ウガイ

A-87. Azedeira (学 *Rumex acetosa*, タデ科, Polygonaceae)

別名 Azeda, Azedinha  
生態性状 アマゾン地方を除く全国。強健な多年生草本。  
利用部位 葉(サラダ、青汁) || 化学成分 精油  
薬効 壊血病、黄疸、生理不調 || 用法用量 お茶  
備考 Azedinha-aleluia (学 *Rumex acetosella*)あり

A-88. Azedinha (学 *Oxalis acetosella/corniculata*, カタバミ科, Oxalidaceae)

別名 Pé-de-pombo, Três-corações, Trifólio, Trevo-azedo  
生態性状 ホブク茎で繁殖する多年生草本。南東部、南部に分布。  
利用部位 葉、根 || 化学成分 精油  
薬効 解熱剤、肝炎、腎臓結石除去 || 用法用量 お茶。青汁(外傷)  
備考 Azedinha-das-pedras (学 *O. densifolia*), Azedinha-trepadeira (学 *O. sarmentosa*)のいずれも解熱剤として利用する。

A-89. Azeitona (学 *Olea europea*, モクセイ科, Oleaceae)

別名 Oliva, Oliveira, オリーブの樹  
生態性状 欧州原産。ブラジル南部で栽培。  
利用部位 種実、樹皮 || 化学成分 精油  
薬効 下剤(黒実) 収れん剤(緑実) リューマチ(葉) 火傷(樹皮油)  
用法用量 3%のお茶(生葉) 樹皮煎汁、外用(樹皮油の温湿布)

A-90. Azevinho (学 *Ilex aquifolium*, モチノキ科, Aquifoliaceae)

別名 Azevim, Acedo(アゼビノ), Congorosa(アゼビノ)  
生態性状 南欧原産。Erva-mate(学 *Ilex paraguariensis*, マテ茶の樹)と同属。  
利用部位 葉 || 化学成分 精油  
薬効 胃腸病(ケイロ等)の鎮痛 || 用法用量 3%のお茶 日量 500ml

B-01. Babosa (学 Aloe vera, ユリ科, Liliaceae)

別名 局方収載。Aloe, Caraguata, Erva-babosa  
生態性状 草丈 0.6-1.5m の多肉植物。原産地は熱帯アメリカ、薬局方収載。  
利用部位 葉 || 化学成分 配糖体、粘質物  
薬効 便秘、頭髪用トニック、外傷 || 用法用量 外用

B-02. Babunha (学 Guilielma insignis, ヤシ科, Palmae)

別名 Coqueiro-babunha, Palmeira-da-bahia  
生態性状 樹皮にトゲがある。材質は黒色。Bahia 州に多く分布。  
利用部位 種実 || 化学成分 油脂  
薬効 リューマチ || 用法用量 外用 (温湿布)

B-03. Bacopa (学 Bacopa aquatica, ゴマノハグサ科, Escrofulariaceae)

別名  
生態性状 ほふく状草本。河川沿岸に多く見られる。  
利用部位 葉 || 化学成分 精油  
薬効 リューマチ、火傷、創傷 || 用法用量 外用

B-04. Bacuri (学 Plantonina insignis, オトギリソウ科, Guttiferae)

別名 Bacurizeiro(樹), Ibacurupari  
生態性状 南米熱帯原産。樹高 15-20メートルの高木。  
利用部位 ナッツ || 化学成分 精油  
薬効 皮膚病 || 用法用量 外用

B-05. Badiana (学 Illicium anisatum/verum, モクレン科, Magnoliaceae)

別名 局方収載。Anis-estrela, Anis-da-china, 大ウイキョウ  
生態性状 中国原産で東南アジアに多く見られる。樹高 15mの高木。  
利用部位 葉、種子(輸入) || 化学成分 精油、樹脂、タンニン  
薬効 胃腸、腸内ガス、ゲップ || 用法用量 2%のお茶、日量 500 ml  
備考 属名 Anisum, Cymbostemum あり

B-06. *Bálsamo-de-copaiba* (学 *Copaifera* sp, マメ科, Leguminosae)

別名 *Bálsamo-de-copari*, *Bálsamo-de-copachu* (C-56 参照)  
生態性状 南米、特にブラジルに多い。樹皮から粘液状の黄色の樹脂をとる。  
利用部位 樹皮 || 化学成分 樹脂、精油  
薬効 皮膚病 || 用法用量 外用

B-07. *Bálsamo-do-peru* (学 *Myroxylum peruiferum*, マメ科, Leguminosae)

別名 *Bálsamo-de-são-salvador*, *Bálsamo-peruano*, *Pau-bálsamo*  
生態性状 ペルー原産。樹皮に傷をつけて、樹脂を採集する。  
利用部位 樹皮 || 化学成分 精油  
薬効 糖尿、膀胱炎、利尿 || 用法用量 1%のお茶。外用

B-08. *Bálsamo-de-tolu* (学 *Toluifera balsamum*, マメ科, Leguminosae)

別名 *Bálsamo-americano*, *Bálsamo-indico*  
生態性状 南米、特にコロンビア、ベネズエラ原産。  
利用部位 樹皮、樹脂 || 化学成分 樹脂  
薬効 局部消毒、呼吸器 || 用法用量 外用

B-09. *Bananeira-do-mato* (学 *Canna brasiliensis*, カンナ科, Cannaceae)

別名 *Bananeirinha*, *Caete-mirim*  
生態性状 草丈 1-1.5m 肥厚した根茎から毎年新茎を出す。花のカンナの仲間。  
利用部位 根、葉 || 化学成分 精油  
薬効 利尿、外傷の軟化 || 用法用量 お茶。葉の煎汁は外用。

B-10. *Baobá* (学 *Adansonia digitata*, パンヤ科, Bombacaceae)

別名 *Bondo*, *Imbondeiro*  
生態性状 中央アフリカ原産。樹令、数千年の巨樹。アマゾンにも分布。  
利用部位 樹皮、種子 || 化学成分 タンニン、樹脂  
薬効 波状熱、下痢(種子) || 用法用量 お茶。煎汁



B-11. Baraúna (学 *Melanoxylon brauna*, マメ科, Leguminosae)

別名 Braúna, Guaraúna, Graúna, Maria-preta, Muirauna  
生態性状 ブラジル中東部原産。材質硬い。比重 1.0  
利用部位 樹脂 || 化学成分 精油  
薬効 下痢、子宮出血、かっ血 || 用法用量 少量を内服

B-12. Barba-de-cabra (学 *Aruncus americanus*, バラ科, Rosaceae)

別名 山羊のヒゲの意  
生態性状 白花をつけるカン木で観賞用。  
利用部位 葉 || 化学成分 精油  
薬効 解熱、強壯、収れん || 用法用量 お茶

B-13. Barba-de-paca (学 *Nepsera aquatica*, ノボタン科, Melastomataceae)

別名 Paca(ケツ類の動物、日 汚れた)のヒゲの意  
生態性状 アマゾン河下流沿岸に多い。  
利用部位 葉 || 化学成分 精油  
薬効 熱帯性の血尿 || 用法用量 お茶

B-14. Barba-de-velho (学 *Tillandsia usneoides*, バイナル科, Bromeliaceae)

別名 Barba-de-pau, Huahuasso, Samambaia  
生態性状 ほぼ全国に分布するが本来熱帯性。寄生性(根がなく樹上から垂下)  
利用部位 樹液 || 化学成分 精油  
薬効 外傷の出血 || 用法用量 外用  
備考 属名 *T. recurvata* あり

B-15. Barbatimão (学 *Styphnodendron barbadetiman*, マメ科, Leguminosae)

別名 Paricarana (Para), Uabatimó  
生態性状 樹高 5-7m の樹木。皮革なめし用のタンニン採取。  
利用部位 樹皮 || 化学成分 タンニン、樹脂、粘質物  
薬効 下痢、出、かっ血、おりもの || 用法用量 2%のお茶。湿布、浴剤。  
備考 属名 *Acacia*, *Mimosa* あり

B-16. *Bardana* (学 *Arctium bardana/lappa*, キク科, Compositae)

別名 Pega-massa, ゴボウ  
生態性状 日本では野菜だが、ブラジルでは薬用植物。  
利用部位 根、葉、花 || 化学成分 配糖体、精油、粘質物  
薬効 利尿、発汗、糖尿病、打撲傷 || 用法用量 2%のお茶、日 500ml。  
備考 属名 *Lappa* あり

B-17. *Baru* (学 *Dipterix pteropus*, マメ科, Leguminosae)

別名 Cumaru, Cumbaru, 日 トンカ豆  
生態性状 熱帯アメリカ原産。種子から析出する結晶がクマリン(食品香料)  
利用部位 種子 || 化学成分 精油、樹脂  
薬効 生理、心炎、強壮、神経症 || 用法用量 お茶

B-18. *Bastão-do-imperador* (学 *Nicolaia elatior*, ショウガ科)

別名  
生態性状 インドネシア原産の草本  
利用部位 地下茎 || 化学成分 精油  
薬効 強心 || 用法用量 お茶  
備考 学名、*Phaemeria magnifica* と同一。

B-19. *Batata-de-purga* (学 *Convolvulus operculata*, ヒルガオ科)

別名 Jalapa(São Paulo), Mechoacão, Raiz-de-Jeticuçu  
生態性状 サンパウロ州に多いツル性草本。  
利用部位 根(イモ) || 化学成分 精油  
薬効 皮膚病、下剤 || 用法用量 お茶(1回のみ) 外用  
備考 属名 *Operculina* あり

B-20. *Batatao-roxo* (学 *Ipomoea pentaphylla*, ヒルガオ科, Convolvulaceae)

別名 Campainha-dos-tintureiros  
生態性状 ツル性の草本。  
利用部位 花(紫色) || 化学成分 精油  
薬効 結膜炎 || 用法用量 洗眼  
備考 サツマイモ(*Batata-doce*, 学 *Ipomoea/Convolvulus batatas*)

B-21. Batiputá (学 *Ouatea castanaefolia/parviflora*, オクナ科, Ochnaceae)

別名 Farinha-seca, Manguê-do-mato, Pau-de-serra  
生態性状 アマゾンから南部まで全国に分布。小木。  
利用部位 樹皮 || 化学成分 タンニン、精油  
薬効 強壯、収れん || 用法用量 お茶

B-22. Batiputá-bravo (学 *Gomphia caduca*, オクナ科, Ochnaceae)

別名 Bom-nome-bravo  
生態性状 海岸地帯に分布。カン木。  
利用部位 種子 || 化学成分 精油  
薬効 リューマチ、丹毒 || 用法用量 外用

B-23. Baunilha (学 *Vanilla aromatica/sativa*, ラン科, Orquidaceae)

別名 英 Vanilla 日 バニラ  
生態性状 中米原産。各節から白色の気根をだす半カン木。発酵果実が食品香料  
利用部位 果実 || 化学成分 精油  
薬効 ヒステリー等の神経系疾患 || 用法用量 お茶  
備考 属名 *Epidendrum*, *Myrobroma* あり

B-24. Begônia (学 *Begonia salicifolia*, シュウカイドウ科, Begoniaceae)

別名 類、*Begônia-folha-de-castanheiro* (学 *B. luxurians*)  
生態性状 Rio de Janeiro州周辺が原産地。半カン木。  
利用部位 全草 || 化学成分 精油  
薬効 尿路感染、膀胱炎、尿道炎 || 用法用量 2%のお茶 日 500ml  
備考 *Begônia-vermelha* (学 *B. coccinia*, セキに有効)

B-25. Beladona (学 *Atropa belladonna*, ナス科, Solanaceae)

別名 局方収載。  
生態性状 欧州中南部原産。  
利用部位 葉、根 || 化学成分 アトロピン (有毒)  
薬効 神経痛、リューマチ、耳炎 || 用法用量 外用 (湿布、ポマード)

B-26. Beldroega (学 *Portulaca oleracea*, スベリヒユ科, *Portulacaceae*)

別名 Ora-pro-nobis, 日、スベリヒユ  
生態性状 乾燥地帯に多い。肉質の植物で野菜の代用になる。  
利用部位 茎葉、種子 || 化学成分 精油  
薬効 肝臓、腎臓、膀胱炎、利尿 || 用法用量 1%のお茶

B-27. Benjoim (学 *Stylax spp.*, エゴノキ科, *Stylacaceae*)

別名  
生態性状 アンソクコウノキ (安息香の樹, *S. benzoin*) と同属。  
利用部位 樹皮、樹脂 || 化学成分 樹脂  
薬効 消毒剤 (石鹼) || 用法用量 外用

B-28. Beque-cheiroso (学 *Piper aromaticum*, コショウ科, *Piperaceae*)

別名  
生態性状 半カン木。  
利用部位 葉 || 化学成分 精油  
薬効 リューマチ鎮痛 || 用法用量 外用 (煎汁)

B-29. Bertalha (学 *Basella rubra*, ツルムラサキ科, *Baselaceae*)

別名 日、ツルムラサキ  
生態性状 ツル性 2年生草本。茎葉は野菜として利用。  
利用部位 根 || 化学成分 精油  
薬効 清涼、傷口の軟化剤 || 用法用量 お茶

B-30. Bibiru (学 *Ocotea rodiaei*, クスノキ科, *Lauraceae*)

別名 Beberu, Itaúba-branca (Amazonia), Louro-bibiru, 英 Green-heart  
生態性状 アマゾン原産の大木。材質硬。  
利用部位 樹皮 || 化学成分 精油  
薬効 強壯、解熱、神経痛 || 用法用量 お茶

B-31. Bicuiba-redonda (学 *Myristica officinalis*, ニクク科, Myristicaceae)

別名 Moscadeira-do-brasil, Noz-moscada-do-brasil 英 Nutmeg tree  
生態性状 東南部地方に分布。  
利用部位 種子 || 化学成分 精油  
薬効 リューマチ、関節痛 || 用法用量 外用 (軟膏)  
備考 学名 *M. bicuiba* もあり。

B-32. Biriba (学 *Rollinia orthopetala*, バンレイシ科, Annonaceae)

別名 Baribá  
生態性状 ギアナ、アマゾン、マラニオン地方原産。  
利用部位 果実 (油脂) || 化学成分 精油  
薬効 打撲傷 || 用法用量 外用

B-33. Biurá (学 *Coix lachryma*, イネ科, Gramineae)

別名 Capim-rosário, Lágrima-de-nossa-senhora, ハトムギの一種  
生態性状 熱帯アジア原産の草本。種実は食用。  
利用部位 種子 || 化学成分 精油  
薬効 利尿、リューマチ || 用法用量 お茶

B-34. Boa-noite (学 *Ipomoea bona-nox*, ヒルガオ科, Convolvulaceae)

別名 Cipó-café, Coerana, Erva-trombeta (ラッパ), 日、ヨルガオ  
生態性状 北米南部以南の熱帯原産。ツル性草本。  
利用部分 全草 || 化学成分 精油  
薬効 リューマチ || 用法用量 浴用  
備考 学 *I. alba* と同じ。 英 Good-night flower

B-35. Boa-tarde (学 *Oenothera acaulis*, アカバナ科, Onagraceae)

別名  
生態性状 チリー原産の多年生草本。ツキミソウと同属。  
利用部位 根 || 化学成分 精油  
薬効 食欲増進、外傷治療 || 用法用量 お茶、外用 (煎汁)

B-36. Boi-gordo (学 *Cassia rugosa*, マメ科, Leguminosae)

別名 Bico-de-corvo(カスノクバウ), Cabo-verde, Raiz-preta  
生態性状 ブラジル東南部地方原産の草本。  
利用部位 全草 || 化学成分 精油  
薬効 セキ、鼻の炎症、丹毒 || 用法用量 お茶

B-37. Boldo (学 *Vernonia condensata*, キク科, Compositae)

別名 Aluman, Arvore-do-pinguço, Boldo-brasileiro, Falso-boldo  
生態性状 アフリカ原産の高さ 2-3m のカン木。ブラジルで広く栽培。  
利用部位 葉 || 化学成分 精油、フラボノイド  
薬効 解毒、利尿、ゲリ || 用法用量 5%のお茶 日量 200ml

B-38. Boldo-do-chile (学 *Pneumus boludus*, モニミア科, Monimiaceae)

別名  
生態性状 チリー原産。ブラジルに順化しない。  
利用部位 葉 || 化学成分 アルカイド、フラボノイド  
薬効 消化液の分泌促進、胆石 || 用法用量 お茶

B-39. Bolsa-de-pastor (学 *Capsella bursa-pastoris*, アブラ科, Curciferae)

別名  
生態性状 草丈 60cm 前後の草本。  
利用部位 葉、根、青汁 || 化学成分 タンニン  
薬効 収れん、出血、吐き気 || 用法用量 2%のお茶、青汁、外用

B-40. Borragem (学 *Borrago officinalis*, ムラサキ科, Boraginaceae)

別名 Foligem  
生態性状 欧州原産。ブラジル南部の山岳地帯に見られる。草丈 60cm。  
利用部位 葉、花 || 化学成分 精油  
薬効 腎炎、利尿、リウマチ、外傷 || 用法用量 お茶。生食

B-41. Borragem-brava (学 Heliotropium indicum, ムラサキ科, Boraginaceae)

別名 Jacuacanga, Crista-de-galo(Amazonia), Fedegoso(Ceara)  
生態性状 ペルー原産の H. peruvianum と同属。香水原料。  
利用部位 葉 || 化学成分 精油  
薬効 外傷、喘息、気管支炎、痔 || 用法用量 お茶

B-42. Borragem-dô-campo (学 Echium plantagineum/violaceum, ムラサキ科)

別名 Borracha-chimarrona, Flor-morada, Borraja-del-campo(アルゼンチン)  
生態性状 方洲南部に自生する草本。  
利用部位 葉、花(外用) || 化学成分 精油  
薬効 心臓、呼吸器疾患 || 用法用量 2%のお茶 日 500ml  
備考 皮膚のシミとりには、花をもんでパップ(Pap) 剤として利用。  
属名 Heliotropium あり

B-43. Botão-de-ouro (学 Xyris pallida, 科名不詳)

別名 Maiacá  
生態性状 アマゾン地方の浸水する粘土質土壌地帯に自生する草本  
利用部位 葉 || 化学成分 精油  
薬効 打撲傷、皮膚病一般 || 用法用量 外用

B-44. Breu-jauaricica (学 Protium icicariba, カンラン科, Burseraceae)

別名 芳香ある白、黄色の樹脂(Almecega, Resina-icica)とよぶ  
生態性状 アマゾン原産の大木。  
利用部位 樹脂 || 化学成分 精油  
薬効 腸疝痛、下痢、ヘルニア || 用法用量 少量内服  
備考 属名 Icica, Amyris あり

B-45. Brionio (学 Bryonia dioica, ウリ科, Cucurbitaceae)

別名 Norca-branca, Norca-vermelha, 英 Bryony  
生態性状 欧州原産の小型ツル性草本。  
利用部位 根 || 化学成分 アルカロイド、樹脂、配糖体  
薬効 催吐、利尿、緩下剤 || 用法用量 1%のお茶 日量 100ml

B-46. Buchinha-de-norte (学 *Luffa operculata*, ウリ科, Cucurbitaceae)

別名 Abobrinha-do-norte, Bucha-dos-pescadores, Cabacinha  
生態性状 ツル性。果実は軟かいトゲがあり、鶏卵大。粘質土壌を好む。  
利用部位 果実 || 化学成分 精油  
薬効 下剤、セキどめ、鼻炎 || 用法用量 お茶、吸入  
備考 Bucha/ヘチマ (学 *L. aegyptiaca/cylindrica*)と同属。  
属名 *Momordica* あり

B-47. Bugio (学 *Combretum bugio*, シクンシ科, Combretaceae)

別名 Rabo-de-bugio(大型サルの尻尾)  
生態性状 ツル性カン木。東北地方の河川沿岸  
利用部分 葉 || 化学成分 精油  
薬効 ヒゼン、潰瘍 || 用法用量 外用

B-48. Buiucu (学 *Ormosia coutinhoi*, マメ科, Leguminosae)

別名 Boiacu, Boiucu, Bocu  
生態性状 アマゾン地方に自生する樹木  
利用部位 葉 || 化学成分 精油  
薬効 子宮疾患 || 用法用量 外用 (浴用)

B-49. Buranhém (学 *Pradosia lactescens*, アカテツ科, Sapotaceae)

別名 Emiraem, Guaranhém, Ivuranhe, Pau-de-remo, Pau-doce  
生態性状 樹木  
利用部位 樹皮 (乳液) || 化学成分 精油  
薬効 収れん、強壯、出血 || 用法用量 2%のお茶 日 500ml  
備考 皮膚病、化膿性の眼炎の手当にも、応用可能。  
属名 *Chrysophyllum*, *Lucuma* あり

B-50. Butua, (学 *Cocculus cineraceus*, ツツラフジ科, Menispermaceae)

生態性状 東南部地方原産のカン木。  
利用部位 根 || 化学成分 精油  
薬効 利尿、生理調整、解熱 || 用法用量 お茶  
備考 *Butua-do-curvo* (学 *Maximiliana regia*, 同科) は外傷に利用。



C-01. Caá-cambuí (学 *Euphorbia serpens*, トウダイグサ科, Euphorbiaceae)

別名 Erva-de-cobra(蛇の草)  
生態性状 Amazonia から Rio州に分布する草本。  
利用部位 葉 || 化学成分 精油  
薬効 利尿、下剤、皮膚潰瘍治療 || 用法用量 お茶、外用  
備考 Caá = ツピー (Tupi, 方洲先住イデイツ) 語で「植物」を意味する。

C-02. Caá-membeca (学 *Polygala paraensis*, ヒメハギ科, Polygalaceae)

別名 membeca = ツピー語「やわらかい」  
生態性状 アマゾン河下流、Pará州の海岸地帯に分布する小カン木。  
利用部位 葉 || 化学成分 精油  
薬効 去痰、セキどめ、呼吸器疾患 || 用法用量 お茶

C-03. Caapeba (学 *Pothomorphe umbellata*, ツツラフジ科, Menispermaceae)

別名 Lençol-de-santa-barbara, Malvaisco, Pariparoba  
生態性状 マナオからカウカ州まで各地に自生している草丈 1.5m の草本。  
利用部位 葉、根 || 化学成分 精油、粘質物  
薬効 消化剤、肝機能回復 || 用法用量 お茶、青汁  
備考 学 *Piper hilarianum/macrophyllum/sidefolium/umbellatum* = 同義

C-04. Caapeba (学 *Cissampelos glaberrima*, ツツラフジ科, Menispermaceae)

別名 Cipó-de-cobra, Erva-de-nossa-senhora, Pani, Parreira-brava  
生態性状 ツル性植物。  
利用部位 根 || 化学成分 精油  
薬効 消化不良、喘息、利尿 || 用法用量 お茶  
備考 学名、*C. tomentosa* あり

C-05. Caapeba-cheirosa (学 *Piper marginatum*, コショウ科, Piperaceae)

別名 Pimenta-dos-indios, Pimenta-do-mato, Nhandi, Nhandu  
生態性状 熱帯雨林地帯原産の小カン木。コショウの代替に利用。  
利用部位 根 || 化学成分 精油  
薬効 腫物、肝、脾臓の閉塞 || 用法用量 お茶  
備考 学 *P. catalpaefolia/decumanu* = 同義

C-06. Caapi (学 *Banisteria caapi*, キントラノオ科, Malpighiaceae)

別名 lagê, Timbo-branco  
生態性状 ツル性植物。アマゾン地方でインジオが栽培。  
利用部位 葉 || 化学成分 アルカロイド  
薬効 局部麻酔 || 用法用量 外用

C-07. Caá-pia (学 *Dorstenia reniformis*, クワ科, Moraceae)

別名 Apí(Pará), Boca-de-acari, Caiapiá, Contra-erva, Teiu  
生態性状 アマゾン及び中部地方に自生する草本。  
利用部位 地下茎 || 化学成分 精油  
薬効 消化器の機能低下、壊疽 || 用法用量 お茶  
備考 pia = Tupi 語で「心臓」の意。

C-08. Caapitiú (学 *Siparuna guyanensis/mollicoma*, モミ科, Monimiaceae)

別名 Limão-bravo, Vulneraria-das-guianas。Tupí 語「悪臭を放つ草」  
生態性状 ギアナからアマゾン地方に分布する小木。悪臭を放つ。  
利用部位 花、葉 || 化学成分 精油  
薬効 興奮、ケイレン || 用法用量 お茶  
備考 Caapituiú-fedorento(学 *S. foetida*) あり

C-09. Caapomonga (学 *Plumbago scandens*, イソマツ科, Plumbaginaceae)

別名 Caataia(Amazonia), Folha-de-louco(Ceara), Erva-do-diabo  
生態性状 アマゾン原産のツル性植物。  
利用部位 葉、根 || 化学成分 精油  
薬効 ひょうそ(爪周囲炎) || 用法用量 外用  
備考 Tupí 語 po-mong=トリモチ

C-10. Caaxió (学 *Cryptocaria guianensis*, クスノキ科, Lauraceae)

別名 Caaxióは、ツピー語  
生態性状 アマゾン河流域に分布する大木。材木は芳香あり。  
利用部位 果実 || 化学成分 精油  
薬効 腸内ガスの排除、興奮剤 || 用法用量 お茶

C-11. Cabaça-amargosa (学 *Lagenaria vulgaris*, ウリ科, Cucurbitaceae)

別名 Cabaça(ヒョウタツ)-de-colo, Cabaça-marimba, Cabaça-purunga  
生態性状 インド原産。ツル性。  
利用部位 果肉、種子 || 化学成分 精油  
薬効 外傷の化膿促進(生果肉) 下剤(熟果肉) 腎臓炎(種子)  
用法用量 果肉はそのまま利用。種子は、お茶にして飲用。  
備考 日本では、ヒョウタツ(クビレがある)と功材を区別するが、同一種。  
学名 *Cucurbita lagenaria* も同一物

C-12. Cabeça-de-negro (学 *Trianosperma tayuya*, ウリ科, Cucurbitaceae)

別名 Cabeça-de-moleque, Tejuco  
生態性状 ブラジル原産、全土にみられるツル性植物。根の先端がイボイボの球状  
利用部位 根 || 化学成分 フラボイド、粘質物、色素  
薬効 関節炎、解熱剤、リウマチ || 用法用量 1%のお茶

C-13. Cabelo-de-milho (学 *Zea mays*, イネ科, Gramineae)

別名  
生態性状 Milho = トウモロコシ  
利用部位 毛(Cabelo) || 化学成分 精油  
薬効 利尿、膀胱、腎臓の腫れ || 用法用量 お茶

C-14. Cabelo-de-negro(学 *Erythroxylum campestre*, 功材科, Erythroxilaceae)

別名 Fruta-de-tucano  
生態性状 Sao Paulo 等、東南地方に分布するカン木。  
利用部位 根 || 化学成分 精油  
薬効 下剤(新鮮な根) || 用法用量 お茶

C-15. Cabelo-de-vênus (学 *Nigella damascena*, キンポウゲ科, Ranunculaceae)

別名 Dama-entre-verdes, Nigela-de-damasco, Nigela-dos-jardins  
生態性状  
利用部位 葉 || 化学成分 精油  
薬効 生理調整 || 用法用量 お茶

C-16. Caboatã (学 *Cupania vernalis*, ムクロジ科, Sapindaceae)

別名 Caboatã-de-capoeira  
生態性状 大西洋沿岸の山脈内に分布するカン木。  
利用部位 樹皮 || 化学成分 タンニン  
薬効 喘息、セキ || 用法用量 お茶  
備考 Caboatã-de-leite (学 *Mauria lactifera*, 科不詳) はリウマチ治療に。

C-17. Cabuçu (学 *Coccoloba martii*, タデ科, Polygonaceae)

別名 Caba-açu (葡語=大きな蜂), Guajabara, Guajuvira  
生態性状 アマゾン原産のカン木。  
利用部位 根 || 化学成分 精油  
薬効 下痢、おりもの || 用法用量 お茶

C-18. Cabureicica (学 *Myrocarpus fastigiatus*, マメ科, Leguminosae)

別名 Cabreíba, Cabriúva-do-campo, Óleo-pardo  
生態性状 アマゾンから 東南部地方にかけて広く自生。  
利用部位 樹脂 || 化学成分 精油、タンニン  
薬効 外傷 || 用法用量 外用

C-19. Cacaueiro (学 *Theobroma cacao*, アオギリ科, Sterculiaceae)

別名 Cacau-verdadeiro, カカオの木  
生態性状 東北方洲各地及びサウジアラビアで栽培。  
利用部位 油脂 (カカオバター) || 化学成分 精油  
薬効 唇、乳首の割れ、痔疾 || 用法用量 外用

C-20. Caçau (学 *Aristolochia cyambifera*, ワスリ科, Aristolochiaceae)

別名 Camara-açu, Cipó-mil-homens, Jarrinha, Papo-de-galo/peru  
生態性状 ツル性植物。  
利用部位 樹皮、根 || 化学成分 精油  
薬効 解熱剤、鎮痛、消化 || 用法用量 4%のお茶  
備考 *A. brasiliense* も同義

C-21. Café-do-mato (学 *Cordia salicifolia*, ムラサキ科, Boraginaceae)

別名 Chá-de-bugre, Laranja-do-mato (Marajó 島), Porangaba  
生態性状 アマゾンから東南部地方各地に自生するカン木。  
利用部位 葉 || 化学成分 精油  
薬効 肥満、浮腫 || 用法用量 お茶

C-22. Caferana (学 *Tachia guianensis*, リンドウ科, Gentianaceae)

別名 Jacaréaru, Quássia-do-pará, Quina-do-amazonas/pará  
生態性状 アマゾンに自生するかん木 (樹高 2メートル)  
利用部位 茎、根 || 化学成分 精油  
薬効 駆虫、消化不良、解熱 || 用法用量 2%のお茶、日 500ml

C-23. Caferana-verdadeira (学 *Picrolema pseudocoffea*, ニガ科, Simaroubaceae)

別名 Falso-café, Quina-amargosa  
生態性状 アマゾン熱帯雨林の2m内外のカン木。コーヒーの樹とよく似ている。  
利用部位 根、全体 || 化学成分 アルカロイド、樹脂  
薬効 解熱、駆虫 || 用法用量 1%のお茶、日量 200ml

C-24. Cagaiteira (学 *Stenocalyx dysentericus*, フトモモ科, Myrtaceae)

別名 Cagaita(果実)  
生態性状 Bahia, Goias州から S. Paulo州までのセラード、原野に自生。  
利用部位 葉、果実 || 化学成分 精油  
薬効 利尿(葉) 下剤(果実) || 用法用量 お茶  
備考 属名 *Eugenia dysenterica*, *Myrtus dysenterica* も同一物

C-25. Caiapia (学 *Dorstenia brasiliensis*, クワ科, Moraceae)

別名 Caapiá, Caapiá-açu, Caapia-mirim, Carapia  
生態性状 東北地方に自生。火入れや乾ぼつに耐える  
利用部位 地下茎 || 化学成分 精油  
薬効 解熱、下剤、利尿、骨折、精力剤としても利用  
用法用量 お茶 骨折の場合、Taiuia(*Cayaponia tayuya*, ウリ科) と組合せる。  
備考 *D. arifolia/montevicensis/multiforme/tomentosa* = 同義

C-26. Caiaté (学 *Omphalea diandra*, トウダイグサ科, Euphorbiaceae)

別名 Castanha-cacté (Amazonas), Castanha-de-cutia (ケシ類の動物)  
生態性状 アマゾン各地の浸水する粘土質土壤に自生する大型ツル性植物  
利用部位 種実 (無味無臭の油脂) || 化学成分 精油  
薬効 下剤 (アマニ油の代用) || 用法用量 飲用

C-27. Caimbé (学 *Coussapoa asperifolia*, クワ科, Moraceae)

別名 Caimbé-rana, ヲビ語 (cai' be) = ほふくする草  
生態性状 アマゾン河沿岸の原始林中の沼沢地 (Igapo) に自生する中型の樹。  
利用部位 樹脂 (黄色) || 化学成分 精油  
薬効 外傷の消毒、癒着 || 用法用量 外用

C-28. Caimito (学 *Chrysophyllum caimito*, アカテツ科, Sapotaceae)

別名 Abiu-do-para, Caimiteiro (樹木), Camiquie, 英 Star apple  
生態性状 中米及びアマゾン原産の中型の樹木。ゼラチン状の果肉を生食する。  
利用部位 樹皮 || 化学成分 精油  
薬効 収れん || 用法用量 お茶

C-29. Cainca (学 *Chiococca brachiata*, アカネ科, Rutaceae)

別名 Cipo-cruz, Purga-preta, Raiz-fedorenta, Raiz-preta  
生態性状 アマゾンから南部まで。高さ2mのツル性カン木。根は黒くて苦い。  
利用部位 根 (皮) || 化学成分 精油  
薬効 利尿、下剤、生理、リウマチ || 用法用量 1%のお茶

C-30. Caiuia-vermelha (学 *Calycogonium punctatum*, バク科, Melastomataceae)

別名 Caiuia-grande  
生態性状 東北地方のカンバツ地帯が原産地。  
利用部位 葉 || 化学成分 精油  
薬効 性病一般 || 用法用量 1%のお茶

C-31. Cajá (学 *Spondias lutea*, ウルシ科, Anacardiaceae)

別名 Cajá-mirim, Cajazeira(樹木), Taperebá  
生態性状 アマゾンの浸水地、高台の森林内の粘土質土壤に自生  
利用部位 樹皮、新芽、花 || 化学成分 精油  
薬効 収れん、強壯、強心(花) || 用法用量 お茶  
備考 丹毒状の足の腫れに対して、樹皮の煎汁を用いる。

C-32. Cajarana (学 *Cabralea cangerana*, センダン科, Meliaceae)

別名 Cajá-espurio (偽の), Canjarana, Canjerana  
生態性状 大木  
利用部位 樹皮 || 化学成分 タンニン、精油  
薬効 解熱、強壯 || 用法用量 お茶

C-33. Calamo-aromático (学 *Calamus aromaticus*, 竹芋科, Cyperaceae)

別名 Junco-de-cobra  
生態性状 アマゾンから東南部地方にかけて自生する草本。  
利用部位 地下茎 || 化学成分 精油  
薬効 利尿、発汗、胃痛、胃炎 || 用法用量 1%のお茶

C-34. Calêndula (学 *Calendula officinalis*, キク科, Compositae)

別名 Malmequer, Maravilhas, キンセンカ  
生態性状 欧州原産の草丈 20-50cmの草本。亜熱帯以南で栽培されている。  
利用部位 花、莖葉 || 化学成分 精油、ワロバ、粘質物  
薬効 生理調整、胃潰瘍、外傷 || 用法用量 お茶  
備考 外用は、葉と花をペースト状に練合せ、患部にはる。

C-35. Calunga (学 *Quassia ferruginea*, ニガキ科, Simaroubaceae)

別名  
生態性状 Minas, Bahia州等のセラード(Cerrado, 疎林地)に自生  
利用部位 樹皮、根 || 化学成分 精油、タンニン  
薬効 強壯、解熱、下痢 || 用法用量 1%のお茶  
備考 属名 *Picrodendrom calunga*, *Simaba ferruginea* は同一物

C-36. Camaçã (学 *Caraipa piramidata*, 科名不詳)

別名 Camaçari-de-caruncho, Camaçari-vermelho  
生態性状 東北地方に自生  
利用部位 樹脂(乳液) || 化学成分 精油  
薬効 Bicho-de-pe(外部寄生虫) || 用法用量 足にぬる。

C-37. Camapu (学 *Physalis angulata*, ナス科, Solanaceae)

別名 Bucho-de-rã, Joá/Juá-de-capote, Juapoca, Mata-fome  
生態性状 アマゾン地方原産。学名 *Physa*= 水泡(果実の形)。  
利用部位 根 || 化学成分 スロール、アルカロイド  
薬効 肝炎、神経、鎮静、リウマチ || 用法用量 お茶  
備考 学名 *P. edulis/pubescens* も、ほぼ同用途に用いる。

C-38. Camará (学 *Lantana camara/spinosa*, クマツツラ科, Verbenaceae)

別名 Camará, Camará-de-espino/cheiro/chumbo  
生態性状 ブラジル原産。ほぼ全国に広がる。繁殖は、種子または挿木。  
利用部位 葉、花 || 化学成分 精油  
薬効 呼吸器疾患、解熱、リウマチ || 用法用量 お茶

C-39. Camará-de-cheiro (学 *Acrodictidium camara*, クスノキ科, Lauraceae)

別名 Camacamara, Itauba-camara  
生態性状 Amazonia から Mato Grosso州にかけてブラジル西部に分布  
利用部位 果実 || 化学成分 精油  
薬効 ケイレン || 用法用量 お茶

C-40. Camboatá (学 *Picramnia camboatá*, ニガキ科, Simaroubaceae)

別名 Camboatan, Camboita, Cambota  
生態性状 東南部地方以北の各地に自生する樹木。  
利用部位 葉 || 化学成分 精油  
薬効 強壯剤、解熱、強心剤 || 用法用量 お茶  
備考 Camboatá-da-bahia(学 *P. bahiensis*)も同様の効果あり。



C-41. Cambucazeiro (学 *Eugenia edulis*, フトモモ科, Myrtaceae)

別名  
生態性状 赤黄色の果実(Cambuca)をつける野生の果樹  
利用部位 葉 || 化学成分 精油  
薬効 気管支炎、百日咳 || 用法用量 2%のお茶 日量 500ml

C-42. Cambuí (学 *Piptadenia colubrina*, マメ科, Leguminosae)

別名 Acácia, Angico-branco/vermelho  
生態性状 東北地方 Caatinga(疎林地)に自生。  
利用部位 樹皮(樹脂) || 化学成分 タンニン、精油  
薬効 呼吸器疾患、収れん || 用法用量 3-5%のお茶

C-43. Cambuí-da-restinga (学 *Eugenia crenata*, フトモモ科, Myrtaceae)

別名 Cambuí-da-praia, Cambuí-pitanga, Cambuí-verdadeiro  
生態性状 海岸、浸水地に生える小木。  
利用部位 種子 || 化学成分 精油  
薬効 解熱 || 用法用量 お茶

C-44. Camomila-da-alemanha(学 *Matricaria chamomilla*, キク科, Compositae)

別名 *Matricaria*, Macela-do-campo, ドイツ・カモミル  
生態性状 欧州原産。草丈 40cm の 1年生草本。S. Paulo⇒Parana州が主産地。  
利用部位 花 || 化学成分 フラボノイド、精油  
薬効 鎮静、発汗、胃腸炎、不眠症 || 用法用量 花茶

C-45. Camomila-romana (学 *Anthemis nobilis*, キク科, Compositae)

別名 ローマン・カモミル  
生態性状 ほふく性の草丈 10-30cmの草本。  
利用部位 花 || 化学成分 精油  
薬効 鎮静、発汗、胃炎、 || 用法用量 お茶  
備考 属名 *Chamomilla nobilis*, *Ormenis nobilis* は同一物

C-46. Campainha-azul(学 *Ipomoea longicuspis*, ヒルガオ科, Convolvulaceae)

別名 Flor-de-são-jão  
生態性状 ツル性。  
利用部位 種子 || 化学成分 精油  
薬効 峻下剤 || 用法用量 お茶

C-47. Campainha-branca (学 *I. littoralis*, ヒルガオ科, Convolvulaceae)

別名  
生態性状 ほふく性のツルをもち、海岸地帯に多く見られる  
利用部位 根(澱粉を含む) || 化学成分 精油  
薬効 下剤 || 用法用量 お茶  
備考 Campainha-folha-de-alteia(学 *Convolvulus althaeoides*) も同性質。

C-48. Cana-brava (学 *Anthoxanthium gigans*, イネ科, Gramineae)

別名  
生態性状 サトウキビに似ているが、株を形成しない。  
利用部位 根 || 化学成分 精油  
薬効 利尿 || 用法用量 お茶

C-49. Cana-de-macaco(学 *Costus pisinis/spiralis*, ショウガ科, Zingiberaceae)

別名 Cana-do-brejo/mato, cana-roxa, Jacuacanga, Perina, Ubacaia  
生態性状 Amazonia から São Paulo州にかけて栽培している  
利用部位 地下茎、葉 || 化学成分 精油  
薬効 利尿 || 用法用量 2%のお茶  
備考 学名 *Alpinia spiralis* 同一物

C-50. Cana-do-brejo (学 *Costus arabicus/spicatus*, ショウガ科, Zingiberaceae)

別名 Cana-roxa, Cana-de-macaco, Jacuacanga, Paco-catinga, Perina  
生態性状 Amazonia から 東北地方にかけて、栽培している  
利用部位 茎、地下茎 || 化学成分 精油  
薬効 利尿、発汗、おりもの || 用法用量 お茶、煎汁  
備考 学名 *Alpinia spicata*, *Sagittaria tuberosa* も同一物

C-51. Canafístula (学 *Cassia ferruginea*, マメ科, Leguminosae)

別名 Canafrista, Tapira-coiana  
生態性状 中南部地方の各地に分布。観賞用の樹木として並木に採用。  
利用部位 果肉 || 化学成分 精油  
薬効 下剤 || 用法用量 お茶

C-52. Canafístula-de-igapó (学 *Cassia leiandra*, マメ科, Leguminosae)

別名 Marimari || igapo=原始林内の沼沢地  
生態性状 アマゾンに自生。Rio州では、街路樹に採用。  
利用部位 果肉 || 化学成分 精油  
薬効 下剤 || 用法用量 お茶

C-53. Canafístula-verdadeira (学 *Cassia fistula*, マメ科, Leguminosae)

別名 Chuva-de-ouro, Canafistula-imperial, Canafrista  
生態性状 中南部各地に見られる。  
利用部位 果肉、葉、根 || 化学成分 精油、タンニン  
薬効 下剤、腎炎、ヘルペス || 用法用量 お茶、葉の青汁

C-54. Canambaia (学 *Rhipsalis pachytera*, サボテン科, Cactaceae)

別名 Rabo-de-jacare (学 *R. macrocarpa*)  
生態性状  
利用部位 葉 || 化学成分 精油  
薬効 各種潰瘍、壊血病 || 用法用量 お茶

C-55. Canela-branca (学 *Nectandra magapotamica*, クスノキ科, Lauraceae)

別名 Canela-cheirosa  
生態性状 8-13m の樹木で、全国に分布。花と種実は芳香をはなつ。  
利用部位 樹皮、葉 || 化学成分 精油  
薬効 健胃 || 用法用量 2%のお茶

C-56. Canela-de-cheiro (学 Ocotea opifera, クスノキ科, Lauraceae)

別名 Caneleira-de-cheiro, Louro, Louro-de-cheiro  
生態性状 中南部各地。大木。  
利用部位 果実(油脂) || 化学成分 精油  
薬効 リウマチ || 用法用量 外用

C-57. Caneleira-de-cheiro (学 Oreodaphne opifera, クスノキ科, Lauraceae)

別名  
生態性状 中南部各地。大木。  
利用部位 果実(油脂) || 化学成分 精油  
薬効 リューマチ、手足のけいれん || 用法用量 外用

C-58. Caninana (学 Chiococca densifolia, アカネ科, Rubiaceae)

別名 Raiz-preta  
生態性状 Minas 州他、東南部地方各地に分布。ツル性植物。  
利用部位 根 || 化学成分 精油  
薬効 利尿、しゅん下剤 || 用法用量 お茶

C-59. Cansação-de-leite (学 Jatropha urens, トウダイゴ科, Euphorbiaceae)

別名 Pinha-queimadura, Urtiga, Urtiga-cansação  
生態性状 ほぼ全国の原野に自生。さわるとチクチクする。  
利用部位 Latex(乳液), 根 || 化学成分 精油  
薬効 白内障(乳液)、利尿 || 用法用量 洗眼、お茶(根)

C-60. Canudo-de-pito(学 Carpotroche brasiliensis, 仔柃科, Flacourtiaceae)

別名 Canudeiro, Fruta-de-cutia/lepra/macaco, Pau-de-anjo 等  
生態性状 アマゾン各地に自生する大木。  
利用部位 樹皮、種子(黄色の油脂) || 化学成分 精油、タンニン  
薬効 解熱、殺虫剤(油脂) || 用法用量 お茶

C-61. Caopía (学 *Vismia guyanensis*, 朴判ツ科, Guttiferae)

別名 *Árvore-da-febre, Goma-lacre, Pau-de-lacre*  
生態性状 アマゾン及び東北地方に分布する樹木。  
利用部位 樹皮、樹脂、葉 || 化学成分 精油  
薬効 解熱、リウマチ、下剤、利尿 || 用法用量 煎汁、お茶、浴用

C-62. Capim-açu (学 *Caladium brasiliense*, カヤツリグサ科, Cyperaceae)

別名 ヲビ-語 açu=大きい  
生態性状 東北地方に多く見られる草本。  
利用部位 根 || 化学成分 精油  
薬効 セキ、肺炎 || 用法用量 お茶

C-63. Capim-amargoso (学 *Sporobolus asperifolius*, イネ科, Gramineae)

別名 Capim-sapé (Marajó島)  
生態性状 アマゾン地方に自生する草本  
利用部位 根 || 化学成分 精油  
薬効 利尿、発汗、脚気 || 用法用量 お茶

C-64. Capim-cidreira (学 *Kyllinga odorata*, カヤツリグサ科, Cyperaceae)

別名 Capim-de-cheiro, Capim-cheiroso, Capim-marinho, Jaçapé  
生態性状 Erva-cidreira によく似た香油を含む。  
利用部位 葉(香油) || 化学成分 精油  
薬効 利尿、発汗、ヒステリー神経症 || 用法用量 2%のお茶、日量 500ml  
備考 Capim-de-um-so-botão (学 *K. pumila/pungens*) あり

C-65. Capim-de-burro (学 *Cynodon dactylon*, イネ科, Gramineae)

別名 Capim-bermuda (Bermuda grass - 牧草)  
生態性状 中南部各地に分布している。フットボール場に利用。  
利用部位 根 || 化学成分 精油  
薬効 利尿 || 用法用量 お茶

C-66. Capim-de-planta (学 *Panicum maximum*, イネ科, Gramineae)

別名 Capim-coloniao (牧草)  
生態性状 中南部各地の牧場に植えられている。栄養価高い。  
利用部位 葉、根 || 化学成分 精油  
薬効 ケイレンの鎮静 || 用法用量 お茶

C-67. Capim-limão (学 *Cymbopogon citratus*, イネ科, Gramineae)

別名 Capim-cidreira/cheiroso/santo レモンかや  
生態性状 草丈 50cm 位の多年生草本。葉から芳香を放つ。  
利用部位 葉 || 化学成分 精油  
薬効 発汗、カゼ、整腸健胃、鎮静 || 用法用量 2%のお茶

C-68. Capim-membeca (学 *Andropogon virginicus*, イネ科, Gramineae)

別名 Barba-de-velho (Para)  
生態性状 アマゾン地方の乾燥した砂地に生える。  
利用部位 地下茎 || 化学成分 精油  
薬効 利尿 || 用法用量 お茶

C-69. Capim-peba (学 *Andropogon bicornis*, イネ科, Gramineae)

別名 Capim-de-bezerro, Rabo-de-burro, Rabo-de-raposa (PE)  
生態性状 粘土質土壌の高台(Terra firme)  
利用部位 根 || 化学成分 精油  
薬効 利尿、肝炎、発汗、脚気 || 用法用量 お茶

C-70. Capitão-de-pernambuco (学 *Hydrocotyle pernambucensis*, セリ科)

別名 Erva-capitão  
生態性状 東北地方から南部までの海岸地帯に分布  
利用部位 葉(大量摂取は有害)、根 || 化学成分 精油  
薬効 利尿、リウマチ、下痢 || 用法用量 お茶、外用

C-71. Capuchinha-grande (学 *Tropaeolum majus*, ノビハル科, Tropaeolaceae)

別名 Capucina, Cinco-chagas, Mastroço-do-peru, 大型キルカ  
生態性状 ツル性の観賞用植物。香辛料としても利用。クレソに類似。  
利用部位 葉、種子 || 化学成分 配糖体  
薬効 壊血病、湿疹、皮膚タダレ || 用法用量 お茶、青汁、外用  
備考 Capuchinha-miudo (学 *T. pentaphyllum*) も同一効果。  
属名 *Cardaminum majus* あり

C-72. Cará-da-pedra (学 *Dioscorea petrea*, ヤマノイモ科, Dioscoreaceae)

別名 「石のヤマイモ」  
生態性状 南部地方の原野に自生。  
利用部位 全草 || 化学成分 精油  
薬効 百日咳、喘息、呼吸器 || 用法用量 2%のお茶

C-73. Carajuru (学 *Arrabidaea chica*, ノウゼンカズラ科, Bignoniaceae)

別名 Chica, Cipó-cruz, Guajuru, Pariri, Piranga  
生態性状 アマゾン各地に自生。ツル性。  
利用部位 葉 || 化学成分 精油  
薬効 ヘルペス || 用法用量 お茶

C-74. Carana (学 *Anyris carana*, 科名不詳)

別名  
生態性状 アマゾン地方に自生。  
利用部位 樹脂(黒色) || 化学成分 精油  
薬効 呼吸器疾患 || 用法用量 お茶、外用

C-75. Carapá (学 *Xylocarpus carapa*, センダン科, Meriaceae)

別名  
生態性状 アマゾン各地に自生する樹木。  
利用部位 樹皮 || 化学成分 精油  
薬効 解熱 || 用法用量 お茶

C-76. Carapanaúba (学 *Aspidosperma nitidum*, キョウワケトウ科, Apocinaceae)

別名 *Árvore-de-mosquito, Pau-de-remo, Sapupema*  
生態性状 アマゾンの高台(Terra firme)の森林中に見られる大木。  
利用部位 樹皮 || 化学成分 タンニン  
薬効 解熱、気管支炎 || 用法用量 お茶

C-77. Carapiá (学 *Sida macrodon*, アオイ科, Malvaceae)

別名 *Malva-do-campo*  
生態性状 東部から南部地方に分布。  
利用部位 根 || 化学成分 精油  
薬効 利尿、発汗 || 用法用量 2%のお茶

C-78. Carabeira-do-campo (学 *Tecoma caraiba*, ナゼカス科, Bignoniaceae)

別名 *Caraíba, Caraúba, Carobeira(Pará), Paratudo(Maro Grosso)*  
生態性状 アマゾンから中西部および海岸地帯の各地に分布する小木。  
利用部位 樹皮 || 化学成分 精油  
薬効 解熱 || 用法用量 お茶

C-79. Cardamomo (学 *Elettaria cardamomum*, ショウガ科, Zingiberaceae)

別名 *Cardamomo-da-india, Agua-de-colonia(Pernambuco)*  
生態性状 カン木  
利用部位 種子 || 化学成分 精油  
薬効 消化不良、ガス || 用法用量 2%のお茶、日量 500ml  
備考 属名 *Amomum cardamomum/racemosum*

C-80. Cardo-ananas (学 *Cereus triangularis*, サボテン科, Cactaceae)

別名  
生態性状 東部、東南部各地  
利用部位 全草、果実 || 化学成分 精油  
薬効 心臓疾患、リウマチ、解熱 || 用法用量 お茶、外用、浴用  
備考 *Cardo-bosta*(学 *C. macrogonus*), *Cardo-da-praia*(学 *C. variabilis*)  
あり。



C-81. *Cardo-santo* (学 *Cnicus benedictus*, キク科, Compositae)

別名 *Cardo-bento* || 属名 *Calcitrapa*, *Carduus*, *Centaurea* あり  
生態性状 インド原産の草本。亜熱帯各地で栽培。  
利用部位 茎葉 (はく皮したもの) || 化学成分 精油  
薬効 子宮疾患、風邪、リウマチ、胃、十二指腸潰瘍、化膿外傷、打撲  
用法用量 2%のお茶。日量 500ml。外用は 5% エキスを使用。

C-82. *Carnaúba* (学 *Copernicia cerifera*, ヤシ科, Palmaceae)

別名 *Carandaí*, *coqueiro-carandá*  
生態性状 世界中で、東北方沖 (乾燥熱帯) のみに生育。葉からロウをとる。  
利用部位 根 || 化学成分 精油  
薬効 利尿、リウマチ、水腫 || 用法用量 2%のお茶。日量 500ml

C-83. *Carnícula* (学 *Caesalpinia bonducella*, マメ科, Leguminosa)

別名 *Inimboia*, *Juquirirana*, *Lágrimas-de-santa-maria*, *Olho-de-gato*  
生態性状 トゲのあるツル性カン木。東北地方の海岸地帯に自生。  
利用部位 種子 || 化学成分 精油  
薬効 丹毒、喘息 || 用法用量 2%のお茶(2時間おき)  
備考 *Carnicula*(学 *Guilandina spinosissima*)も同一症状に応用。

C-84. *Caroba* (学 *Jacaranda caroba*, ノウゼンカズラ科, Bignoniaceae)

別名 *Caraua*, *Jacarandá-brasiliana/brasilense/preto/procera*  
別語「*Folha amarga*, 苦い葉」  
生態性状 東北、中西部、東南部地方に自生するカン木。  
利用部位 葉、根皮 || 化学成分 精油  
薬効 皮膚病、アレルギー性下痢、利尿 || 用法用量 2%のお茶、外用  
備考 属名 *Bignonia*, *Hordelestris* あり

C-85. *Caroba-da-miuda*(学 *Hordelestris undulata*, ノウゼンカズラ科, Bignoniaceae)

別名 *Casco-de-cavalo*  
生態性状 カン木  
利用部位 葉 || 化学成分 精油  
薬効 バイ毒 (男性性病) || 用法用量 お茶

C-86. Caroba-de-flor-verde (学 *Bignonia quinquefolia*, ヲビカズ科)

別名 Caroba-do-campo, Ipê-branco, Ipê-de-flor-verde, Ipe-mirim  
生態性状 全国各地にみられる。  
利用部位 葉、新芽、樹皮、根 || 化学成分 タンニン、精油  
薬効 バイ毒(男性性病) || 用法用量 お茶  
備考 属名 *Bignonia/Cybistax antisiphilitica* も同一。

C-87. Caroba-do-mato (学 *Jacaranda/Simaruba copaia*, ヲビカズ科)

別名 Caráuba, Carobuçú, Marupa-falso, Parapará(Para)  
生態性状 南米北部からアマゾン地方に分布する大木。  
利用部位 葉、樹皮 || 化学成分 タンニン、精油  
薬効 バイ毒、発汗、外傷(潰瘍) || 用法用量 お茶、外用(エタ)  
備考 Caroba-do-campo(学 *Jacaranda pteroides*)も、同効果を示す。

C-88. Carolina (学 *Adenanthera pavonina*, マメ科, Leguminosae)

別名 Condoris, Tendo, Tendo-carolina  
生態性状 方洲南部に自生する大木。  
利用部位 樹皮、葉 || 化学成分 タンニン、精油  
薬効 リューマチ || 用法用量 外用(エタ)

C-89. Carqueja (学 *Baccharis trimera*, キク科, Compositae)

別名 Carqueja-amarga, Carquejinha || 属名 *Cacalia* あり  
生態性状 草丈 1m。Minas 州以南の各地で、低湿地に多く見られる。  
利用部位 茎葉 || 化学成分 精油  
薬効 整腸健胃剤、食欲増進、利尿 || 用法用量 お茶  
備考 Carqueja-doce(学 *Baccharis gaudichaudiana*)も同効果。

C-90. Carrapichinho (学 *Urena sinuata*, アオイ科, Malvaceae)

別名 Quiabo-bravo || Carrapicho=頭上部又は後部に束ねた髪毛。  
生態性状 中南部各地。小カン木。  
利用部位 葉、種子 || 化学成分 精油  
薬効 傷口軟化、セキどめ、利尿 || 用法用量 外用(葉エタ) お茶  
備考 Carrapicho-redondo(学 *U. trilobata*)も同一効果を示す。

C-91. Carrapicho-beiço-de-boi (学 *Desmodium diureticum*, マメ科, Leguminosae)

別名 Papo-de-peru(汁/汁の付袋) || beiço= 分厚い付袋  
生態性状 Rio 以北、東北地方各地に自生する草本。  
利用部位 全草 || 化学成分 精油  
薬効 粘膜炎(尿道炎等) || 用法用量 外用

C-92. Carrapicho-de-agulha (学 *Coreopsis tricornea*, キク科, Compositae)

別名 agulha= 針  
生態性状 1メートル以下の草本  
利用部位 全草 || 化学成分 精油  
薬効 黄だん || 用法用量 お茶

C-93. Carrapicho-de-calçada(学 *Triumfetta rhomboidea*, シソ科, Tiliaceae)

別名 Amor-do-campo, Barba-de-boi, Guaxima  
生態性状 アマゾンから東南部の Cerrados(疎林地) まで各地に自生。耕地雑草。  
利用部位 葉 || 化学成分 精油  
薬効 取れん、粘膜炎 || 用法用量 外用  
備考 Carrapicho-grande(学 *T. althaeoides*) も同様効果を示す。

C-94. Carrapicho-rasteiro(学 *Acanthospermum xanthioides*, キク科, Compositae)

別名 Carrapicho-de-carneiro, Espinho-de-agulha, Poejo-da-praia,  
生態性状 小型、ほふく茎(Rasteiro)で繁殖する。1年生。全国に分布。  
利用部位 葉、根 || 化学成分 粘質物  
薬効 消化促進、ゲリ止め || 用法用量 お茶

C-95. Carrasco (学 *Cambessederia umbelicata*, ノボタン科, Melastomataceae)

別名  
生態性状 アマゾン地方のカン木。  
利用部位 葉 || 化学成分 精油  
薬効 肺結核、胃炎 || 用法用量 お茶

C-96. Carucaá (学 Cordia multispicata, ムラサキ科, Boraginaceae)

別名  
生態性状 小カン木。  
利用部位 葉 || 化学成分 精油  
薬効 セキ、風邪、気管支炎 || 用法用量 お茶

C-97. Caruru (学 Amaranthus flavus, ヒユ科, Amaranthaceae)

別名 Bredo, Bredo-rabaca, Caruru-do-mato, Crista-de-galo  
生態性状 全国に分布。古くから食用。  
利用部位 茎葉 || 化学成分 精油  
薬効 肝炎 || 用法用量 お茶

C-98. Caruru-bravo(学 Phytolacca decandra, ヤマゴボウ科, Phytolaccaceae)

別名 Caruru-açu, Caruru-de-cacho, Espinafre-macio, Uva-dos-tropicos  
生態性状 全国に分布するカン木。耕地雑草。  
利用部位 全草(乾)根 || 化学成分 精油  
薬効 外傷、口内炎、下剤(根)  
用法用量 外用、ワガモ 葉と併用すると効果倍増。ウガイ(青汁30滴/200ml)  
内服は 1% のお茶。

C-99. Caruru-de-espino (学 Amaranthus spinosus, ヒユ科, Amaranthaceae)

別名 Bredo-branco, Bredo-de-espino, Bredo-de-santo-antonio  
生態性状 アンデス高地原産だが、世界中に広がった。種子で繁殖。  
利用部位 葉、花 || 化学成分 精油  
薬効 利尿、下剤、セキ止め || 用法用量 お茶

C-100. Caruru-de-sapo (学 Oxalis martiana, カタバミ科, Oxalidaceae)

別名 Oxalida  
生態性状 全国にひろがる耕地雑草。  
利用部位 葉 || 化学成分 精油  
薬効 解熱、粘膜炎症 || 用法用量 お茶、うがい

C-101. Caruru-monstro (学 *Amarantus speciosus*, ヒユ科, Amarantaceae)

別名 Amaranto-monstro/gigantesco/piramidal  
生態性状 アジア原産だが、ブラジルにも帰化。  
利用部位 葉、花 || 化学成分 精油  
薬効 外傷のはれをひく、去たん || 用法用量 お茶

C-102. Caruru-verdadeiro (学 *Amarantus blitum*, ヒユ科, Amarantaceae)

別名 Bredo-macho/malabar/rabaca/verdadeiro, Caruru-de-porco  
生態性状 欧州原産だが、ブラジルにも帰化。野菜として利用。  
利用部位 葉 || 化学成分 精油  
薬効 外傷のはれをひく || 用法用量 お茶

C-103. Caruru-verde (学 *Amarantus viridis*, ヒユ科, Amarantaceae)

別名 Amaranto-verde, Bredo, Caruru-de-soldado, Cruru-miúdo  
生態性状 全国に分布  
利用部位 葉 || 化学成分 精油  
薬効 利尿、肝炎、膀胱炎 || 用法用量 お茶

C-104. Caruru-vermelho (学 *Amarantus cruentus/paniculatus/purpurascens*  
ヒユ科, Amarantaceae)

別名 Bredo-vermelho, Chorão, Crista-de-galo-chorona, Veludo  
生態性状 全国に分布する草本。  
利用部位 葉 || 化学成分 精油  
薬効 セキ止め || 用法用量 お茶

C-105. Carvalho (学 *Quercus* spp, ブナ科, Fagaceae)

別名  
生態性状 世界各地に原産。樹高 40m, 樹径 2m という巨木もある。樹令100年。  
利用部位 樹皮 || 化学成分 タンニン、樹脂  
薬効 収れん || 用法用量 5%のお茶 日量 200ml

C-106. Casca-de-anta (学 Drymis winteri, モクレン科, Magnoliaceae)

別名 Caá-pororoca (北部地方) Melambo(Pará), Paratudo(SP, MG)  
生態性状 アマゾン他、各地に自生する低木。  
利用部位 樹皮 || 化学成分 タンニン  
薬効 疲労回復、健胃整腸 || 用法用量 お茶

C-107. Casca-de-anta-brava (学 Rauwolfia bahiens, トウワケ科, Apocinaceae)

別名 Catare, Melambó, Pucazeiro  
生態性状 ブラジル東部原産のカン木。樹皮は非常に硬い。  
利用部位 樹皮 || 化学成分 精油、タンニン  
薬効 下痢、胃腸不調、貧血 || 用法用量 お茶  
備考 Reserpine 含量は、R. serpentina より少ない。

C-108. Casca-preciosa (学 Aniba canelilla, クスノキ科, Lauraceae)

別名 Amapaima, Canela(Pará), Casca-de-maranhao  
生態性状 アマゾン高台(Terra firme)の大森林内の中高木。  
利用部位 樹皮、種子 || 化学成分 精油  
薬効 消化、強壮、ケレシ、下痢 || 用法用量 お茶

C-109. Casca-preciosa (学 Mesphilodaphne pretiosa, クスノキ科, Lauraceae)

別名 Amapaima, Pau-precioso, Pereiorá  
生態性状 アマゾン原産の大木。  
利用部位 樹皮 || 化学成分 精油  
薬効 浮腫、記憶減退、痛風 || 用法用量 お茶

C-110. Cascara-sagrada (学 Rhamnus purshiana, クロウメモドキ科, Rhamnaceae)

別名 ブラジル局方収載  
生態性状 北米原産の樹木。樹皮は黄灰色で、苦味あり。  
利用部位 樹皮 || 化学成分 タンニン、配糖体、精油  
薬効 下剤 || 用法用量 2%のお茶、日量 100ml

C-111. Cascarilha (学 *Croton eluteria*, トウダイグサ科, Euphorbiaceae)

別 名

生態性状 樹高 2メートルの小木。Amazonia⇒Goias, Mato Grosso州に分布。

利用部位 樹皮 || 化学成分 タンニン、樹脂、精油

薬 効 下痢どめ、殺菌剤 || 用法用量 2%のお茶、ウガイ

備 考 学 *C. glabellus*, *C. slonei* も同一植物。

C-112. Cascarilha (学 *Croton Cascarilla*, トウダイグサ科, Euphorbiaceae)

別 名 *Canela-falsa*, *Falsa-quina*, *Quina-cinzenta-aromatica*

生態性状 アマゾンから中西部にかけて分布。

利用部位 樹皮 || 化学成分 タンニン

薬 効 下痢、解熱 || 用法用量 お茶

C-113. Castanha-da-india (学 *Aesculus hippocastanum*, ムクロジ科, Sapindaceae)

別 名

生態性状 アジア、アメリカ大陸原産の大木で、今日世界中に分布。

利用部位 種実 || 化学成分 タンニン

薬 効 痔疾、静脈瘤、静脈炎 || 用法用量 お茶、外用

C-114. Castanha-de-arara (学 *Johannesia heveoides*, トウダイグサ科, Euphorbiaceae)

別 名

生態性状 アマゾンの高台(Terra firme)の森林内。ゴムの木に似ている。

利用部位 種実 || 化学成分 精油

薬 効 下剤、吐剤 || 用法用量 お茶

C-115. Catauri (学 *Crataeva benthami*, フウチョウソウ科, Capparidaceae)

別 名 *Catauari*, *Catauré*, *Pau-d'alho*(Mato Grosso), *Trapiá*(Ceara)

生態性状 アマゾンの滞、浸水地に多く分布する小木。

利用部位 葉、根 || 化学成分 精油

薬 効 健胃剤、リウマチ || 用法用量 お茶、外用(葉)

C-116. Catiguá (学 *Trichilia catigua*, センダン科, Meliaceae)

別名 Caá-tigua, Caticuá, Catigoá  
生態性状 ほぼ全国に分布する中木。  
利用部位 樹皮、葉 || 化学成分 タンニン、精油  
薬効 消化剤、リウマチ、下剤 || 用法用量 お茶

C-117. Catinga-de-mulata (学 *Leucas martinicensis*, シソ科, Labiatae)

別名 Cordão-de-frade/são-francisco, Pau-de-praga  
生態性状 高さ 1m の 1年生草本。  
利用部位 葉 || 化学成分 精油  
薬効 リウマチ、痛風、喘息、 || 用法用量 お茶、浴用  
備考 学 *Stachys fluminensis* も同一植物。

C-118. Catinga-de-mulata (学 *Tanacetum vulgare*, キク科, Compositae)

別名 Atanasia-dos-jardins, Balsamita-vulgar, ヨモギギク  
生態性状 草本  
利用部位 葉、花序 || 化学成分 精油  
薬効 駆虫、リウマチ || 用法用量 2%のお茶、日量 500ml  
備考 学 *T. balsamita* も同一植物。

C-119. Catinga-de-negro (学 *Cleoma gigantea*, フクキ科, Capparidaceae)

別名 Catinga-de-latu, Muçambé, Muçambé-catinga  
生態性状 草本。全国の湖沼地の周辺に分布  
利用部位 全草 || 化学成分 精油  
薬効 リウマチ || 用法用量 浴用

C-120. Catingueira (学 *Apodanthera smilacifolia*, ウリ科, Cucurbitaceae)

別名 Cipó-azougue, Cota  
生態性状 ツル性植物。  
利用部位 根 || 化学成分 精油  
薬効 皮膚病、リウマチ || 用法用量 外用



C-121. Catolé (学 *Rhapis pyramidata*, ヤシ科, Palmae)

別名 Catule  
生態性状 樹高 30メートルに達するヤシ。  
利用部位 種実(脂肪) || 化学成分 精油  
薬効 丹毒(ストレプトコッカス) || 用法用量 外用

C-122. Catuaba (学 *Erythroxylum catuaba*, コカノキ科, Erythroxylaceae)

別名 Caramuru, Pau-de-resposta, Tatuaba  
生態性状 北部、東北部地方の原産。中西部にも分布  
利用部位 樹皮 || 化学成分 精油  
薬効 神経系の強壯剤。強精剤 || 用法用量 お茶  
備考 学 *Juniperus brasiliensis* も同一植物

C-123. Cauqui (学 *Mimusops amazonica*, アカテツ科, Sapotaceae)

別名 Balata  
生態性状 南米北部原産。樹高 30-50メートル。樹幹を切付けて、バラタゴムを採取  
利用部位 樹皮、葉 || 化学成分 精油  
薬効 取れん、外傷はれ || 用法用量 外用

C-124. Cavalinha (学 *Equisetum pyramidale*, トクサ科, Equisetaceae)

別名 Erva-canudo, Lixa-vegetal, Rabo-de-cavalo  
生態性状 高さ 0.8-1.3m の多年生草本。中部⇒南部に分布。地下茎で繁殖。  
利用部位 茎葉 || 化学成分 精油  
薬効 利尿 || 用法用量 お茶  
備考 学 *E. arvense/ bogotensis/ giganteum/ martii/ ramosissimum*  
/ *silvaticum/ xylochaeton* は同一。

C-125. Cebola-brava-do-pará (学 *Pancratium guianense*, ヒガンバナ科)

別名 Açucena-d'agua(Pará), Cebola-branca, Cila-da-terra  
生態性状 アマゾン各地の浸水地に自生する草本  
利用部位 球根 || 化学成分 精油  
薬効 強壯、去タン、利尿 || 用法用量 お茶  
備考 Cebola-cecém (学 *Amaryllis belladonna*) も同一効果。

C-126. Cedro (学 *Cabralea leavis*, センダン科, Meliaceae)

別名 Cairana  
生態性状 Rio 州以北から東北地方にかけて分布する大木。  
利用部位 樹皮 || 化学成分 精油、タンニン  
薬効 外傷、潰瘍 || 用法用量 外用

C-127. Cedro-branco(学 *Cedrela fissilis/brasiliensis*, センダン科, Meliaceae)

別名 Cedro-batata  
生態性状 アマゾンから東南部地方まで各地に分布する大木。  
利用部位 樹皮 || 化学成分 タンニン、精油  
薬効 収れん、解熱 || 用法用量 お茶  
備考 Cedro-rosa (学 *C. glaziovii*), Cedro-vermelho(学 *C. odorata*)も同様の効果を示す。

C-128. Celidônia (学 *Chelidonium majus*, ケシ科, Papaveraceae)

別名 Erva-das-verrugas, Erva-dos-calos, Queridônia, クサノオウ  
生態性状 欧州、アジア原産。草丈 1.5m。  
利用部位 全草 || 化学成分 アルカロイド  
薬効 外用鎮痛剤、肝炎、 || 用法用量 外用、内服(要指示)

C-129. Centáurea-brasileira(学 *Callopisma perfoliatum*, リンド科, Gentianaceae)

別名  
生態性状 Minas 州に多く分布する草本。  
利用部位 根 || 化学成分 精油  
薬効 健胃整腸 || 用法用量 お茶

C-130. Centáurea-do-brasil (学 *Dejanira erubescens*, リンド科, Gentianaceae)

別名 Boca-de-sapo, Copo-d'agua, Fel-da-terra  
生態性状  
利用部位 全草 || 化学成分 精油  
薬効 健胃整腸、解熱、内寄生虫 || 用法用量 お茶

C-131. *Centaurea-maior* (学 *Centaurea centaurium/majus*, キク科, Compositae)

別名 Fel-da-terra  
生態性状 南東部以南、アルゼンチンまでの温帯各地に自生する草本。  
利用部位 根 || 化学成分 精油  
薬効 強壯、発汗、痔疾、呼吸器 || 用法用量 お茶

C-132. *Centaurea menor* (学 *Centaureum minus*, リンドウ科, Gentianaceae)

別名 Erva-de-chiron, Erva-da-febre, Fel-da-terra  
生態性状 北半球原産の草丈 50cm の草本。  
利用部位 花序、全草(輸入) || 化学成分 粘質物、配糖体  
薬効 解熱、消化不良 || 用法用量 3%のお茶。日量 200ml  
備考 属名 *Chironia*, *Erythraea*, *Gentiana* あり

C-133. *Centella-asiatica* (学 *Centella asiatica*, セリ科, Umbeliferae)

別名  
生態性状 マダガスカル原産だが、世界の熱帯地方に広がっている。  
利用部位 葉、全草 || 化学成分 精油、配糖体  
薬効 皮膚病 痔疾 || 用法用量 クリーム、ボマーダ

C-134. *Cerefolio* (学 *Anthriscus cerefolium*, セリ科, Umbeliferae)

別名 Cerefolha, 英 Chervil  
生態性状 草丈 1m 内外の香辛料植物。  
利用部位 葉 || 化学成分 精油、フラボノイド  
薬効 利尿、生理 || 用法用量 1%のお茶、日量 200ml

C-135. *Cerejeira-de-pulga* (学 *Melothrian pendula*, ウリ科, Cucurbitaceae)

別名  
生態性状 São Paulo 州ほか温帯各地に自生する草本  
利用部位 果実 || 化学成分 精油  
薬効 下剤 || 用法用量 半個で充分。

C-136. Cervina (学 *Rhamnus catharticus*, クロウメモドキ科, Rhamnaceae)

別名	Espinho-cervina, Escamboeiro		
生態性状	ブラジル原産の小木。		
利用部位	果実	化学成分	配糖体、タンニン、色素
薬効	下剤	用法用量	5%のお茶 日量 200ml

C-137. Cevadilha (学 *Schoenocaulon officinale*, ユリ科, Liliaceae)

別名	Cevadilla, Sabadilla		
生態性状	メキシコ原産だが、ブラジルにも帰化。		
利用部位	種子	化学成分	精油
薬効	外寄生虫、鎮静	用法用量	お茶

C-138. Chá-da-américa (学 *Capraria biflora*, マノウ科, Escrofulariaceae)

別名	Chá-bravo, Chá-da-terra, Chá-de-lima, Chá-de-marajó(Pará)		
生態性状	Bahia 州以北、アマゾンに至る各地に自生する草本		
利用部位	葉	化学成分	精油
薬効	健胃、強壯、解熱	用法用量	お茶

C-139. Chá-da-terra(学 *Buddleia quinquenaria*, マノウ科, Escrofulariaceae)

別名	Chá-do-mato		
生態性状	東北地方各地に分布する草本		
利用部位	全草	化学成分	精油
薬効	鎮静	用法用量	お茶

C-140. Chamana (学 *Drosera tuberosa*, モウセンゴケ科, Droseraceae)

別名	Nove-horas		
生態性状	東北地方各地に自生する草本		
利用部位	根(小イモ)	化学成分	精油
薬効	下痢	用法用量	お茶